

一般社団法人 兵庫県社会福祉士会

2019 年度事業報告

『総括』

2019年度は、本会設立から26年目を迎え、これまで社会福祉士資格を持つ会員の支援をしてきた基盤をもとに、特に公益性のある事業の拡大や会員に対する支援を重点的に推進した。

具体的には「兵庫県社会福祉士会発展5か年計画2020～未来に向かって～」の計画4年目として、魅力ある会づくり及び会員増加を図るため、入会促進キャンペーンを継続するとともに、本会PR動画を製作し、会員の会への帰属意識の向上を図った。また、新入会者を対象にしたイベント「はじめのいっぽ♪」を開催し、入会促進に重点的に取り組んだが、新入会者数は136名（2018年度は152名）にとどまった。

生涯研修センターでは、基礎研修及びの認証研修を実施し、生涯研修制度の充実を図った。

また、会員交流事業や地区ブロックでの集い場拡大により、多くの会員が集う機会を充実させ、一人ひとりの会員が見える組織づくりも着実に進めた。

さらに、ソーシャルワーカーデーのイベントを明石市で県内ソーシャルワーク関係5団体と共催するとともに、その5団体で合同の研修会も実施した。また、「ここねっと兵庫」による権利擁護活動、各地区ブロックでの「まちかど相談会」など、県民へのPR・相談活動を積極的に展開した。

兵庫県等からの受託事業についても、会員の参画と協力を得て引き続き担うとともに、災害時の要援護者の個別支援計画を作成する「防災と福祉の連携促進モデル事業」を県下に拡大するなど積極的に取り組んだ。このように様々な活動を行ってきたが、特に以下の1～8の項目に重点的に取り組んだ。

本会の決算収支を見ると、2018年度に引き続き、予算執行の節約と「防災と福祉の連携促進モデル事業」などの受託事業の拡大により、約200万円の黒字となり2期連続して黒字を確保することができた。

一方、年度末にかけて、新型コロナウイルスによる感染が日本各地に拡大するという未曾有の事態が発生した。兵庫県においても3月1日に感染者が初めて確認され、国は4月7日に緊急事態宣言を発令、兵庫県も感染拡大地域に指定された。外出等の自粛と休業要請も出され、4月16日には緊急事態宣言が全国に拡大されるに至った。2020年4月末現在、10,000人以上の感染者が確認されている。

感染拡大に対する不安や休業による生活苦など、これまで私たちが経験したことのないような事態が起きている。阪神・淡路大震災以来の厳しい社会状況を迎える中で、社会的弱者や医療・介護が必要な人たちへの支援をいかに継続していくかが問われている。

本会の活動方針も大幅な変更を余儀なくされるなど、大きな影響が生じている。事業計画を見直しつつ、新型コロナウイルスの影響を受ける会員や県民への支援活動を積極的に行っていく必要がある。

1 公益性の高い事業の展開と会員に対する支援の推進

会員の参画と協力を得て、「高齢者・障害者虐待対応力向上研修」「地域包括支援センター職員向け困難事例対応力向上研修」「住宅確保要配慮者居住支援事業」「障害者差別解消相談センターへの相談員派遣」「JR相談支援センター事業」「防災と福祉の連携促進モデル事業」「医療的ケア児等支援事業」等を受託し、公益性の高い事業を実施し、会員に対する支援を行うために欠かせない事務局体制の強化に努めた。

2 会員組織率の向上と5か年計画の推進

合格祝賀会、優秀学生の表彰、入会促進キャンペーン等を引き続き実施するとともに、新たに入会イベントや集い場を拡大するなど「兵庫県社会福祉士会発展5か年計画2020」の4年目として新規事業に取り組んだ。入会者136名（前年度152名）を迎え、会員数は1,750名まで増加した。一方、退会者も72名（前年度53名）に増え、組織率は15%台へとやや低下している。

3 地区ブロック活動の推進と発展

県内7地区のブロックでは、地区ブロック会員等の協力により「まちかど相談会」のほか、集い場を拡大するなど、地域の特性を生かした活動を行うとともに、新入会者向けのイベントに取り組んだ。

4 「福祉相談センター ここねっと兵庫」の充実

社会福祉士のもつ専門性を十分に発揮し、権利擁護関係の委員会を構成員として、県民・市民の悩みや問題の支援を行う窓口として開設し、県民からの相談を受け付けた。社会福祉士としての専門性を生かした相談業務を展開するため、ホームページや広報誌への掲載による PR 活動に努めた。

5 委員会活動の充実と強化

社会的な要請による社会福祉士の任用、活動分野の拡大に応えるため、17 の委員会を設置するとともに、「こどもの権利擁護に関する研究プロジェクトチーム」では、未成年後見やこどもの貧困等についてその支援策について検討を行うなど、委員会等の活動を展開した。

また、ぱあとなあ兵庫では、登録会員数は 506 名、受任件数も 1,636 件になり、権利擁護の取り組みを推進するとともに、成年後見制度利用促進基本計画に基づき、弁護士会、司法書士会と連携して、権利擁護活動を推進した。

6 生涯研修センターの円滑な運用と会員の資質向上

今年度は 49 名の会員が基礎研修課程を修了するとともに、スーパービジョンに 21 名の会員が取り組んだ。また、「災害支援活動者養成研修」「スクールソーシャルワーカー養成研修」「滞日外国人ソーシャルワーク研修」「高齢者虐待対応研修」を実施し、会員の資質向上に資する事業を展開した。

7 災害対応への取組み

「災害支援委員会」を中心に、近畿ブロック災害部会と共同して、「災害支援活動者養成研修」を開催するなど、災害支援体制の構築に取り組んだ。

8 専門職団体や社会福祉関係団体との連携

今後の福祉の方向性を示す「地域共生社会」の概念は、福祉分野にとどまらず、医療分野を含む広範囲のものである。福祉分野においても、高齢者分野に限定されず、障害者、児童、生活困窮者、その他、生活上の困難な方を地域社会で、専門職と地域住民が協働していかに支えていけるかが重要視されている。

このような状況のもと、県下及び近隣府県の専門職団体との連携を深めた。特にソーシャルワーカーデーは、兵庫県精神保健福祉士協会、兵庫県医療ソーシャルワーカー協会、兵庫県介護支援専門員協会、兵庫県介護福祉士会のソーシャルワーク関係 5 団体の共催で 4 年目を迎えた。この催しを通じて、広く社会福祉に携わる専門職の活動を啓発していくとともに、5 団体と合同研修を実施し、その専門性を共有できた。近畿ブロックの活動としては、近畿ブロック研究・研修京都大会に協力するとともに、研修部会、ぱあとなあ部会、実習部会、国家試験対策部会、災害部会において、各府県士会が相互に交流し、協力する関係を深めた。

さらに、兵庫県プライマリ・ケア協議会、兵庫県リハビリテーション協議会、兵庫県地域包括支援センター三職種団体連絡会等に参画するとともに、弁護士会、司法書士会等の専門職団体との連携を強化し、地域包括ケアの推進に努めた。

事務局 報告

1 第20回 総会の開催

期 日： 2019年6月22日（土）
会 場： 兵庫県民会館 パルテホール
議 題： (1) 2018年度事業報告（案）について
(2) 2018年度決算報告（案）ならびに監査報告について
報告事項： (1) 兵庫県社会福祉士会 2020・5カ年発展計画の2018年度の進捗状況について

2 記念講演会

期 日： 2019年6月22日（土）
会 場： 兵庫県民会館 パルテホール
演 題： 「支え合って生きるということ
～社会福祉士とともに「みんなが暮らしやすい」を考える～」
講 師： 丹野 智文 氏（おれんじドア代表）

3 第21回 総会の開催

期 日： 2020年3月22日（日）
会 場： 兵庫県福祉センター 1階多目的ホール
報告事項： (1) 2019年度補正予算について
議 題： (1) 会費に関する規則の改正について
(2) 2020年度事業計画（案）について
(3) 2020年度予算（案）について

4 2019年度 理事会の開催

第1回	5月11日	兵庫県福祉センター 会議室
第2回	6月22日	兵庫県民会館 会議室
第3回	7月20日	兵庫県福祉センター 会議室
第4回	10月26日	兵庫県福祉センター 会議室
第5回	12月21日	兵庫県福祉センター 会議室
第6回	1月18日	兵庫県福祉センター 会議室
第7回	2月15日	兵庫県福祉センター 会議室
第8回	3月22日	兵庫県福祉センター 会議室

その他 報告事項

1 各種大会・研修会・会議などの参加

- ・日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（茨城大会） ・近畿ブロック研究・研修 京都大会
- ・その他 日本社会福祉士会会長会議、生涯研修委員会会議、日本社会福祉士会総会
日本社会福祉士会各委員会、近畿ブロック代表者会議 等

2 本会推薦（2019年度）主なもの

日本社会福祉士会 基礎研修開発プロジェクト	チームメンバー	土谷 長子	本会理事
日本社会福祉士会 こども家庭委員会	委員	田邊 哲雄	本会会員
日本社会福祉士会 生活困窮者支援委員会	委員	近藤 健太	本会会員
兵庫県社会福祉協議会	評議員	岡本 和久	本会会長
兵庫県社会福祉協議会 権利擁護部会	委員	岡本 和久	本会会長
兵庫県社会福祉協議会 社会福祉研修委員会	委員	谷口 弘	本会副会長
兵庫県社会福祉協議会 福祉人材センター運営委員会 及び福祉人材確保推進協議会	委員	中山 貴之	本会副会長
兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉サービス運営適正化委員会 選考委員会	委員	中山 貴之	本会副会長
兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉サービス運営適正化委員会	委員	西野 佳名子	本会会員
兵庫県社会福祉協議会 日常生活自立支援事業 契約締結審査会	委員	乾 なち子	本会会員
社会福祉法人兵庫県共同募金会	第三者委員	谷口 弘	本会副会長
社会福祉法人経営等審査会	委員	西野 佳名子	本会会員
兵庫県リハビリテーション協議会	理事	岡本 和久	本会会長
兵庫県プライマリ・ケア協議会	監事	岡本 和久	本会会長
兵庫県介護支援専門員協会 倫理特別委員会	委員	増山 陽子	本会理事
兵庫県立高等学校におけるいじめ重大事態調査委員会	委員	馬場 幸子	本会会員
神戸市介護認定審査会	委員	栢田 節子	本会会員
	委員	増山 陽子	本会会員
	委員	園部 りえ子	本会会員
	委員	乾 なち子	本会会員
	委員	岸本 裕子	本会会員
	委員	原 信行	本会会員
	委員	大庭 光子	本会会員
	委員	植田 京子	本会会員
	委員	大庭 光子	本会会員
	委員	山本 勝之	本会会員
	特別委員	増山 陽子	本会理事
	委員	山内 賢治	本会会員
	委員	田島 啓子	本会会員
	委員	植田 京子	本会会員
	委員	西野 佳名子	本会会員
	委員	谷田 芳浩	本会会員
	委員	木村 由子	本会会員
	委員	宇都宮 ゆか	本会会員
	委員	土谷 長子	本会理事
	委員	岡本 和久	本会会長
	委員	三木 一子	本会会員
	委員	村上 弘幸	本会会員
	委員	森保 純子	本会会員
	委員	樹下 和幸	本会委員
	委員	魚住 剛	本会理事
	委員	橋本 真輔	本会会員
	委員	木高 壽子	本会会員
	委員	森保 純子	本会会員
	委員	西川 圭一郎	本会会員
	委員	田邊 哲雄	本会会員
	委員	森保 純子	本会会員

委員會報告

1 総括

生涯研修制度においては生涯研修センターの講師陣とファシリテーターが年々拡充され、基礎研修の分担運営の目処がついた。

引き続き生涯研修センターと協働し、基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの開催・運営に協力した。

「福祉専門ゼミナール」（こうのとりゼミ）を週末の第3金曜日開催の定例研修として実施（県福祉センター）した。前期3回・後期3回の講義には多分野から講師に登壇いただいた。定期的に週末に会員が集う研修で、研修後は講師との交流時間を持ち、さらに内容を深められる機会につながった。

日帰りの施設見学を2回（愛光社会福祉事業団：姫路市及びガラシア病院：箕面市）、宿泊研修では兵庫県丹波市の東漸寺でのマインドフルネス研修を実施した。企業のメンタルヘルスや医療・介護領域で浸透がすすむマインドフルネス研修を継続開催しており、先進的な実践について学習するとともに、専門職のストレスケアに貢献した。

全体行事であるソーシャルワーカーデー、社会福祉セミナー、会員交流事業（基礎研修Ⅲ修了式・納涼会・忘年会）において開催準備やスタッフ協力を行い、会員交流を促進した。

近畿ブロック研究研修大会（京都大会）では分科会発表の運営協力を行った。

2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	20	12名	兵庫県福祉センター	死の体験旅行（ワークショップ） あなたにとって本当に大切なものは何か？ 講師：浦上 哲也 氏 浄土真宗俱生山なごみ庵住職
5	10	17名	兵庫県福祉センター	福祉専門ゼミナール（こうのとりゼミ）前期① 「社会福祉士の実践における対話（ダイアログ）の重要性」 講師：竹端 寛 氏 兵庫県立大学人間環境学部 准教授
5	23	15名	愛光社会福祉事業団 （姫路市）	愛光社会福祉事業団の 就労継続支援 B 型事業所等見学 展示物観覧
5	26	9名	兵庫県福祉センター	クリニカルアート（臨床美術）講座
6	14	12名	兵庫県福祉センター	福祉専門ゼミナール（こうのとりゼミ）前期② ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実際 ～ACPの基本的理解～ 講師：鈴木 千枝 氏 兵庫医療大学 講師 看護師・介護支援専門員
7	12	10名	兵庫県福祉センター	福祉専門ゼミナール（こうのとりゼミ）前期③ 今さら・・・だけど地域包括ケア 講師：針山 大輔 氏 芦屋市精道高齢者生活支援センター 介護支援専門員・社会福祉士
9	22 23	16名 16名	東漸寺（丹波市）	援助者のためのストレス解消法 マインドフルネス講座・実践 講話 座禅など 講師：池埜 聡 氏 関西学院大学 教授 講師：不破 一浩 氏 東漸寺住職

11	8	15名	兵庫県福祉センター	福祉専門ゼミナール（こうのとりゼミ）後期① 「在宅での看取りについて」 ～人生の最後の大切なときを、自宅で家族と過ごすために～ 講師：関本 雅子 氏 関本クリニック院長・ 日本ホスピス在宅ケア研究会理事
11	13	29名	ガラシア病院（箕面市）	病院施設見学・ホスピスケアについての講義 ボランティアの取り組み紹介など
12	13	12名	兵庫県福祉センター	福祉専門ゼミナール（こうのとりゼミ）後期② 生活困窮者への支援から見えてきた課題と求められるものとは 講師：青木 しげゆき 氏 特定非営利活動法人 神戸の冬を支える会事務局長
1	10	14名	兵庫県福祉センター	福祉専門ゼミナール（こうのとりゼミ）後期③ ADHD の理解と支援 講師：高 富栄 氏 ココころのクリニック院長・精神保健指定医

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	20	9名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
5	18	4名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
7	6	7名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
8	31	7名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
10	5	5名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
11	2	8名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
12	14	10名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
1	18	10名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
2	9	5名	兵庫県福祉センター	研修・イベントの企画・打ち合わせ
3	新型コロナウイルス感染症対策で開催なし			

1 総括

2019年度は、初めての取り組みとして、『ソーシャルワークアカデミーin 兵庫』（以下 SWA）を行った。本研修は社会福祉士が自身の実践を振り返り、根拠のある支援を行うとともに社会の為に専門的資質を高めていくことを目的としている。その結果、近畿ブロックや日本大会等で発表できる会員が増加することも期待する。

初日の「実践研究の方法を学ぶ」研修では、神戸親和女子大学発達教育学部福祉臨床学科の高橋昌子教授に講師を務めていただき、初心者が実践研究発表を行う道筋について学んだ。また実践研究報告会では社会福祉士以外の参加者の姿も多く見られ、4名の会員が日頃の実践について発表した。

今年度初めての SWA は受講生のサポート体制が非常に手厚く（受講生 1 名に対して委員 2 名）、満足度も高かった反面、委員の負担やコスト面では今後課題が残った。

来年度はさらに、会員の調査研究に関するスキルアップを支援し、日頃の社会福祉実践をまとめ発表していき、社会福祉関係者の実践力向上の支援を行う。

2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	18	15 名	兵庫県福祉センター	SWA 研究方法を学ぶ・研究テーマ設定
6	29	12 名	兵庫県福祉センター	個別指導
8	24	15 名	兵庫県福祉センター	個別指導
9	28	15 名	兵庫県福祉センター	理論の構築・研究者の視点の獲得・発表練習
10	6	25 名	兵庫県福祉センター	実践研究発表会を行う。 SWA 受講生 3 名含む 4 名の実践研究発表を行う。 会長賞はなし。発表の前に高橋先生による講義「ソーシャルワーク実践を研究につなげる」

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	28	7 名	兵庫県福祉センター	今年度の方針 顔合わせ
5	18	10 名	兵庫県福祉センター	初日の振り返り、次回にむけての確認事項
6	16	7 名	兵庫県福祉センター	2 回目に向けての打ち合わせ
6	29	5 名	兵庫県福祉センター	2 回目振り返り。3 回目の役割分担確認
8	24	10 名	兵庫県福祉センター	3 回目振り返り。4 回目の役割分担確認
9	28	12 名	兵庫県福祉センター	4 回目振り返り。5 回目の役割分担確認
10	6	8 名	兵庫県福祉センター	発表会の振り返り。
11	16	9 名	兵庫県福祉センター	2019 年度事業振り返り。来年度に向けて
3	8	5 名	兵庫県福祉センター	2020 年度事業についての打ち合わせ

1 総括

2019 年度の事業計画で掲げた方針に沿って、委員会を中心に本会会員の協力を得て事業を実施してきた。以下に方針ごとに活動の総括をする。

(1) 質の高い受験対策講座の開催

当委員会の主たる事業である「社会福祉士受験対策講座」は、兵庫県精神保健福祉士協会、豊岡短期大学と共催して、9月～11月に開催をした。2019年度も社会福祉士の受験に必要な19科目を実施することができた。今年度より受験対策ゼミを実施しない代わりに上記対策講座終了後、19:00まで会場を自習室として開放し、当日の講師に協力を仰ぎ、受験対策ゼミ形式の補講を行ったり、試験勉強の相談に乗ったりした。同時に、本会ホームページ内の受講生専用Webサイトでは、交流掲示板で試験勉強の相談や模擬試験・受験対策の心得を発信し、開講前から試験合格発表までの約半年間、受講生のフォローアップを行った。

また、2020年1月には直前対策講座を開催し、受験1か月前のフォローアップを行った。一部を除いて受験対策講座のアンケートも概ね良好であった。2020年度は、神戸・豊岡講座については集合講座での開講を企画しつつ、集合講座が開催困難な場合に備えて代替措置を検討しておきたい。

神戸・豊岡講座の受講生の試験合格率は55%であった。昨年度までと比較して合格率は低下した。出題傾向の変化と各科目における試験分析を行うことで、本会の事業の柱として質が高くかつ社会的に求められる講座として実施していく。

また、2020年2月試験日に合わせて、当委員会及び他府県士会有志で「解答速報」を作成し、神戸・豊岡講座受講生に対して上記専用Webサイトに掲載した。試験当夜20時45分に公開し、97.3%の正答率という結果であった。次年度も継続していきたい。

(2) 新しい講師の掘り起こしや講師養成などを通して持続可能な受験対策講座にしていく

2019年7月には神戸講座担当講師との講師会議を通して意見交換及び留意点の確認を行った。2019年度は、講師養成募集は実施することができなかったが、新たに神戸女子大学より講師派遣依頼があり、それに伴って一部新たな講師を選定した。2020年度は、新たに希望者を募り、講師養成を行うことで、新たな講師の掘り起こしを行っていききたい。

(3) 社会福祉士養成校等との連携、要請に応じた受験対策支援

養成校等との連携は、神戸女子大学より講師派遣依頼があり、19科目すべてに講師を派遣した。また、阪神ブロックにおける自主ゼミ開催にあたり、全日程4日間ゼミチューターを派遣した。

(4) 近畿ブロック他府県士会との連携

近畿ブロックとの連携については、2015年度より開催した近畿ブロックの国家試験対策担当者会議を継続的に開催することができた。この会議の中で各府県の様々な課題や特異点が出され、それらを共有することで、近畿ブロック内での連携強化が必要という認識となった。継続的に本協議を行い、2020年度についても、連携を継続していく。

(5) 会員獲得の支援（①合格祝賀会の開催②受講生を対象にした準会員割引の実施）

会員獲得支援活動としては、2019年度も合格祝賀会を開催した。合格祝賀会参加者で入会した方からは「入会するきっかけになった」「合格祝賀会が勉強の励みになった」などの声があり、入会促進を図ることができた。

例年、広報活動の一環として、試験日当日に横断幕を持って受験生への激励とねぎらいを兼ねた社会福祉士会の広報誌配りを実施し、多数の受験生に配布することができた。また、本講座の受講生からは「当日の応援に勇気が出た」などの声を試験終了後に聞くことができた。

当委員会としては、今後もこれらの活動を継続的に実施していき、会員獲得支援に少しでも貢献できるように取り組んでいく。

2 事業報告

『社会福祉士・精神保健福祉士受験対策講座の開催』

日 程：2019年9月1日、8日、29日、10月6日、27日
(10月12日は台風襲来の為、27日に代替開催)
時 間：9:00 又は 9:30～16:50、各日とも 19:00 まで自習室開放
場 所：兵庫県福祉センター
申込者数：1. 社会福祉士コース 56名、
2. 社会福祉士専門 3名
3. 精神保健福祉士コース 7名
4. 精神保健福祉士専門 1名 計 67名

—社会福祉士受験対策講座の合格率—

受 験 生：40名の受験番号確認はがきの返信
合 格 者：22名
合 格 率：55.0% (前年度比28.3%DOWN)

『社会福祉士国家試験 統一模擬試験』

日 時：2019年11月3日(日) 10:00～15:30
場 所：兵庫県福祉センター 83名

『受験直前対策講座』

日 時：2020年1月4日(日) 10:00～17:00
場 所：兵庫県福祉センター
参 加 者：20名
内 容：数科目の統一模擬試験や過去問などの解説を通してポイント整理

『受験対策豊岡講座』

日 時：1日目：2019年11月23日(土) 9:30～16:50
2日目：2019年11月24日(日) 9:30～16:50
場 所：豊岡短期大学
受 講 生：15名

『近畿ブロック国家試験対策委員会担当者連絡会』

日 時：第8回・2019年5月25日(日) 神戸市青少年会館(兵庫県主催) 3名
第9回・2019年11月9日(日) 奈良県社会福祉総合センター(奈良県主催) 6名

『合格祈願参り』

日 時：2020年1月25日(土) 10:00～12:00
場 所：神戸北野天満宮

『社会福祉士試験日当日の激励とねぎらい』

日 時：2020年2月2日(日) 8:00～16:00
場 所：神戸国際展示場・神戸市外国語大学

『第32回社会福祉士国家試験 解答速報作成』

日 時：2020年2月2日(日) 12:00～20:50
場 所：神戸女子大学

1 総括

2019 年度も福祉の動向や本会及び社会福祉士について幅広く発信し、会員の利便性の向上を図る活動に取り組んだ。特に本会の広報誌「Pocket」では、より多くの人々に手に取ってもらえればとの思いから、タイムリーなテーマの特集ページを組んだ。例えば、元号が平成から令和へと変わった Vol.13 では「平成の福祉を振り返る」と題して平成の 30 年余りに起きた社会問題や福祉施策を、東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えた Vol.14 では「パラリンピック」を取り上げ、兵庫県内のパラアスリートたちを紹介した。委員会メンバーが誌面編集を担うことでコストを極力抑え、経費削減にも努めている。

会員機関誌「このとり通信」は秋号で 100 号目を迎えた。記念企画として本会会員の興味・関心のある事柄をアンケート調査し、ユニークな回答を掲載した。今後も魅力のある誌面作りに努めていきたい。

また、ホームページを大幅にリニューアルした。更新頻度を高めることで新しい情報を会員等にいち早く届けるとともに、研修申込フォームを設けるなど、利便性の向上を図った。本会の広報用の動画も作成し、ホームページ内にて視聴することができるようにしている。

さらに、メーリングリストの管理・運営及び登録者の増加に向けても注力した。メーリングリストは平常時には研修や求人情報が中心となっているが、災害時には会員の安否確認や被害状況の共有にも有効なツールとなる。その必要性を伝えるとともに、今後も登録者の増加に向けて努めていく。

2 事業報告

- (1) 会員機関誌「このとり通信」の発行
(年 4 回 No.98 春号 4 月 No.99 夏号 7 月 No.100 秋号 10 月 No.101 新春号 1 月)
- (2) 広報誌「Pocket」の取材・編集・発行
(年 2 回 Vol.13 (9 月) Vol.14 (3 月))
- (3) ホームページ及び Facebook の運営、会員機関誌・ホームページでの広告スペースの提供
- (4) 兵庫県社会福祉士会メーリングリスト(ひよこ ML)の運営
登録者数：721 人 (2020 年 3 月 31 日現在) 新規登録者数：77 人 (2019 年度)
- (5) 県立尼崎北高校にて 2 年生を対象に社会福祉士についての出前講座を実施
- (6) 委員会の開催 (10 回) 及び取材 (3 回)

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容	
4	14	7 名	兵庫県福祉センター	委員会	広報誌年間スケジュール、このとり通信 100 号記念特集について
5	19	7 名	兵庫県福祉センター	委員会	広報誌 Vol.13、研修申込書統一フォームについて
6	1	8 名	兵庫県福祉センター	委員会	このとり通信夏号校正、広報誌 Vol.13 について
7	6	7 名	兵庫県福祉センター	委員会	広報誌 Vol.13 について
8	3	6 名	兵庫県福祉センター	委員会	広報誌 Vol.13 について
8	31	9 名	兵庫県福祉センター	委員会	広報誌 Vol.13 最終校正、このとり通信秋号校正、2020 年度事業計画及び予算について
10	5	7 名	兵庫県福祉センター	委員会	広報誌 Vol.14 について

11	24	2名	伊丹市アイ愛センター	取材	ボッチャ選手のインタビュー及びボッチャの体験
12	8	8名	兵庫県福祉センター	委員会	こうのとり通信新春号校正、広報誌 Vol.14 について
1	24	2名	兵庫県庁(ユニバーサル推進課)	取材	兵庫県のパラアスリートへの支援について
1	26	4名	兵庫県福祉センター	委員会	広報誌 Vol.14 について
2	13	1名	神戸常磐アリーナ(兵庫県立文化体育館)	取材	兵庫県のパラアスリートへのインタビュー
3	8	8名	兵庫県福祉センター	委員会	こうのとり通信春号校正、広報誌 Vol.14 最終校正、広報誌 Vol.15 のテーマについて

1 総括

2019 年度は、新たな委員会メンバーも増え、様々な相談に対応できるべく活動の充実を図った。年 6 回の委員会定例会開催日に合わせて委員会メンバーが参加した研修会等を伝達する形で勉強会を行った。また、テーマを定めず自由形式で福祉に関する法令やサービスなどの社会資源の情報交換を行った。

なるべく多くのメンバーとともにそれぞれの専門分野についての活動現場の状況を知り、法律等制度改正情報を共有し知識やスキルを深めることに努めた。またメンバー同士が相談援助実践における事例を共有することで得られる実践感覚、対応力の向上を目指すため、「福祉なんでも相談」の広報に努め相談件数を増やすこと、またブロック主催の「まちかど相談」や地域における福祉イベントなどに相談員を派遣し、相談援助の機会を増やしていく。

2 事業報告

(1) 「福祉なんでも相談」、「役員会・定例会・勉強会」

当委員会はこの「福祉なんでも相談」を活動の要とし毎月 1 回第 2 土曜日 13:00~16:00 に福祉センター内当会事務局にて福祉の相談援助活動を行っている。この「なんでも相談」の日に合わせ、役員会・定例会・勉強会を 4 月・6 月・9 月・10 月・12 月・3 月に計 6 回行った。

昨年に引き続き広報に努め「福祉なんでも相談」の案内の新聞への掲載依頼等をしているが、相談件数は昨年度より減少している。さらに広報に努める必要と相談委員会メンバーの相談援助技術スキルアップの必要がある。

「福祉なんでも相談」及び出張相談についての実績については以下のとおり。

日時	場所	内容	相談件数	備考
4 月 13 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・勉強会」	0 件	相談員 2 名
5 月 11 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0 件	相談員 2 名
6 月 8 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・勉強会」	0 件	相談員 2 名
7 月 13 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	1 件	相談員 2 名
7 月 14 日 (日) 13:00~16:00	あかし市民広場	ソーシャルワーカーデー 「福祉なんでも相談」※5 団体	10 件	相談員 3 名派遣
8 月 10 日 (日) 9:00~17:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0 件	相談員 2 名
9 月 14 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・勉強会」	0 件	相談員 2 名
10 月 12 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・勉強会」	1 件	相談員 2 名
11 月 9 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0 件	相談員 2 名
12 月 14 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・勉強会」	0 件	相談員 2 名
1 月 11 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0 件	相談員 2 名
2 月 8 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0 件	相談員 2 名
3 月 14 日 (土) 13:00~16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・勉強会」	0 件	相談員 2 名

(2)「まちかど無料相談会・活動展示会」(兵庫県委託事業)

県委託事業として「まちかど無料相談会・活動展示会」に相談委員を派遣し、福祉サービスの普及啓発に努めるとともに社会福祉士の意義と活動の啓発につとめ、広く県民の理解促進につなげる活動を継続した。

「まちかど無料相談・活動展示会」の相談員派遣については以下の通り

ブロック	日程	場所	相談員派遣数	相談件数
東播	10月10日(土)	明石市立産業交流センター	2名	0件
淡路	10月14日(日)	洲本社会福祉協議会	2名	3件
西はりま	11月3日(土)	姫路福祉祭り(大手前公園)	2名	2件
神戸	11月23日(土)	デュオこうべ	2名	12件

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場所	内容
4	13	13名	兵庫県福祉センター	定例会：新年度体制と今年度事業内容の確認 電話当番割り振り
6	8	8名	兵庫県福祉センター	勉強会：福祉関連法令について 定例会：電話当番割り振り
9	14	14名	兵庫県福祉センター	定例会：まちかど無料相談派遣・電話当番割り振り 相談対象者の拡大について
10	12	12名	兵庫県福祉センター	勉強会：災害時における社会福祉士の役割 定例会：まちかど無料相談派遣・電話当番割り振り
12	14	14名	兵庫県福祉センター	勉強会：生活保護法と障害年金(入口)について 定例会：電話当番割り振り
3	14	14名	兵庫県福祉センター	定例会：新年度体制と今年度事業内容の確認 電話当番割り振り

1 総括

当委員会では、学んできた理論を実践の場で活用すること、また実践を理論化していくことにより根拠のある支援を行うことを目指している。

学習会の開催により、学びあう姿勢を大切に、ソーシャルワークの在り方を再確認する場としている。また、必要に応じてこの「場」を広く知ってもらうために研修会も行っている。

2 事業報告

委員会は2ヶ月に1回のペースで開催。委員会と学習会に時間を分け、参加者を募っている。学習会ではテーマを参加者が出し合い、相互に意見交換をして学び合う。ソーシャルワーカーとしての関わりを理論に照らして言語化し、日々の実践を理論に基づいたソーシャルワークとして振り返る。ソーシャルワーカーとしての知識、技術の向上に日々努めている。

ひよこメーリングリスト等で開催を周知。随時、参加を受け付けている。

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	12	11名	神戸市東部在宅障害者センター	委員会：今後の学習会の進め方について検討する 学習会：「事例を通して考える」
7	7	10名	神戸市東部在宅障害者センター	委員会：実践報告の取り扱い方について検討する 学習会：「成年後見の事例を通して考える」
9	8	10名	神戸市東部在宅障害者センター	委員会：(連絡等) 学習会：「課題図書『日本型組織の病を考える(村木厚子著・角川新書)』を読んで考える」
11	17	12名	神戸市東部在宅障害者センター	委員会：今後の学習会テーマの決め方について検討する 学習会：「意思決定支援の実践を通して考える」
1	12	10名	神戸市東部在宅障害者センター	委員会：(連絡等) 学習会：「就労準備支援事業について」
3	8	新型コロナウイルスの影響により自主判断にて中止		

1 総括

前年度に引き続き 2019 年度は、『高齢者虐待対応力向上研修』『障害者虐待対応力向上研修』の主管を兵庫県より受託し、習熟度や行政機関、サービス事業所など対象者別にプログラムを作成し実施した。また、虐待対応専門職チームの利用促進のため契約している市町との『虐待対応専門職チームの派遣要請等に関する意見交換会』や市町への訪問を実施した。2019 年度は講師・アドバイザー派遣及び研修事業の運営が主な活動となった。

2 事業報告

(1) 高齢者虐待専門職チーム派遣の契約市町（播磨町、加東市、稲美町、神戸市、多可町、西脇市、南あわじ市、豊岡市、姫路市、丹波市、朝来市、三田市 計 12 市町）と派遣実績

- ・ 契約市町との虐待対応専門職チームの派遣要請等に関する意見交換会：6/5
出席市町：神戸市、播磨町、稲美町、西脇市、多可町、姫路市、丹波市
- ・ アドバイザー派遣

神戸市	6/17、6/24、10/18、12/9、12/24、2/7、2/12		
丹波市	6/26、9/11、3/9	姫路市	6/25、7/10、12/3、3/9
西脇市	11/15、2/27	南あわじ市	4/23
太子町	12/18	多可町	6/26
豊岡市	8/29	三田市	12/9 障害福祉課
朝来市	2/19		

(2) 講師派遣等実績

5/24	丹波市	12/4・12/25	須磨祐厚 HP
5/30・6/4	甲南老健	12/4	神戸市 (あんしんすこやかセンター)
7/4	神戸市 (初任者対象)	1/21	六甲
7/23・7/24	緑風園	1/29	リアルライフ神戸
8/10	川西市 CM 協会	1/30・2/20	老人保健施設 リハ・神戸
8/23	神戸市 (あんしんすこやかセンター)	2/20	姫路市薬剤師会
10/11	加東市	3/5	福祉の里 三田
11/22	神戸市中央区	3/12	恵泉 明石
11/18	神戸市灘区		

(3) 兵庫県弁護士会高齢者虐待対応専門職チームとのワーキング

4/12	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館
6/5	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館
7/24	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館
9/18	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館
11/25	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館
2/21	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館

(4) 2019 年度高齢者虐待対応力向上研修 (兵庫県委託)

月	日	会場名		受講者数
7	12	兵庫県福祉センター	(講義) A研修	53名
7	30	姫路じばさんびる	(講義) A研修	55名
8	8	兵庫県福祉センター	(講義・演習) D研修	25名
8	21	兵庫県福祉センター	(講義・演習) D研修	36名
9	12	和田山ジュピターホール	(講義) A研修	38名
			(講義・演習) B研修	16名
			(講義・演習) C研修	12名
10	9	姫路じばさんびる	(講義・演習) D研修	43名
10	18	兵庫県民会館	(講義・演習) C研修	41名
10	29	姫路労働会館	(講義・演習) B研修	54名
11	7	のじぎく会館	(講義・演習) B研修	47名
11	20	のじぎく会館	(講義・演習) C研修	29名
12	5	兵庫県福祉センター	(講義・演習) C研修	28名
12	18	姫路労働会館	(講義・演習) B研修	13名
合 計				延 490 人

(5) 2019 年度障害者虐待対応力向上研修 (兵庫県委託)

月	日	会場名		受講者数
6	28	兵庫県福祉センター	(基本講義) A研修	86名
7	16	姫路労働会館	(基本講義) A研修	105名
8	6	兵庫県福祉センター	(応用演習) C研修	29名
8	28	姫路労働会館	(基礎演習) B研修	91名
9	6	兵庫県福祉センター	(基本講義) A研修	127名
9	11	但馬長寿の郷	(基礎演習) B研修	12名
10	16	姫路じばさんびる	(基本講義) A研修	122名
11	14	兵庫県福祉センター	(応用演習) C研修	48名
12	3	姫路じばさんびる	(応用演習) C研修	56名
1	10	兵庫県福祉センター	(基礎演習) B研修	75名
合 計				延 751 人

(6) 「高齢者・障害者のための弁護士 電話法律相談」 毎月第1・5木曜日相談員派遣

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	11	17名	兵庫県福祉センター	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
7	20	18名	兵庫県福祉センター	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
9	21	15名	兵庫県福祉センター	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
11	30	12名	兵庫県福祉センター	来年度事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
1	25	13名	兵庫県福祉センター	来年度事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
3	22	新型コロナウイルスの影響により自主判断にて中止		

1 総括

家庭裁判所各支部から兵庫県社会福祉士会への受任候補者推薦依頼が、昨年度、平均 15 件/月届いた。一昨年平均 13 件/月から益々増加傾向となった。事案は、被後見人等に親族のかかわりが無く独居での在宅生活の支援や、入院中でこれから居所を選定して行くケースなど身上保護の必要とされる困難な事案が多く見られた。公募で受任候補者として応募して頂いており、再募集、再々募集になることも有るが、会員の方々のご協力でなんとか対応して来た。

新規名簿登録者は、77 名となったが、昨年度は新カリキュラムでの成年後見人材育成研修（認証）の開催を予定していたが、定員に達せず、京都会開催研修を兵庫会員から 5 名受講する事となった。

会員が安心して受任して頂ける様に、各エリアで継続的に名簿登録者研修会を開催した。後見活動の専門知識を得る機会や事例発表などの研修の機会を設け、顔の見える関係作りに取り組んでいる。

2017 年 3 月 24 日、成年後見制度の利用の促進に関する法律に基づく成年後見制度利用促進基本計画が閣議決定された。これにより市町村は基本計画を懸案して、市町村における成年後見制度利用の促進に関する施策についての基本計画を 2022 年度までに定めることとされた。その準備段階より三専門職団体が参画することが要請され、兵庫県の三士会としても合同して積極的にこれに参画していくことを確認し、兵庫県や各市町、家庭裁判所、県・市社協などとの協議等に積極的に対応している。

日本社会福祉士会では、未成年後見人の受任について相談が増えてきていることから、2017 年から未成年後見人養成研修が開催されるようになり、「ばあとなあ兵庫」も未成年後見追記登録を行い、損害賠償保険の加入も可能となった。「ばあとなあ兵庫」の未成年後見小委員会では、この取組みの検討会を 3 回実施した。

2 事業報告

1 研修会・会議

(1) 家裁支部エリア別登録者研修会

ばあとなあ活動の中心であるエリア別研修会を神戸、尼崎、伊丹、姫路、明石・加古川、社、柏原の家裁支部エリア毎に2ヶ月から3ヶ月に一度の研修会を開催した。

月	日	内 容	参加人数
4	27	ばあとなあ兵庫全体会	209名
		「家庭裁判所書記官の講演」「意思決定支援セミナーを受講して報告」	
5	15	明石・加古川エリアとリーガルとの合同勉強会	31名
		ワンポイント民法・ワンポイント福祉拡大版「在宅生活での困りごと」	
	25	神戸エリア	41名
		成年後見制度利用促進基本計画の進捗状況	
6	8	姫路エリア	34名
		事例発表・後見人の裁量について	
	15	柏原エリア	15名
		重度障がい者の地域生活と意思決定支援	
7	20	尼崎エリア	32名
		宿泊型自立訓練事業所について	
	21	伊丹エリア 家庭裁判所から・成年後見制度の現状と成年後見業務に関して社会福祉士にのぞむこと	31名

8	7	明石・加古川エリアとリーガルとの合同勉強会 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインの解説	17名
	24	神戸エリア 被後見人の権利擁護について	24名
9	7	明石・加古川エリア 成年後見制度利用促進基本計画の進捗状況について	17名
	14	豊岡エリア・姫路エリア・龍野エリア ・後見人取消権 ・『地域連携』多職種、地域が関わっている困難事例	17名
11	16	明石・加古川エリアとリーガルとの合同勉強会 ワンポイント福祉、ワンポイント民法拡大版「相続法改正の概略」	17名
	6	柏原エリア 「明日からでもできる後見受任」①	12名
	16	伊丹エリア	31名
		税理士による税務関連学習会 成年後見基本実務研修	72名
	30	尼崎エリア 障害者から高齢者障害者に～障害者の65歳問題～	35名
		姫路エリア 事例発表・親族後見人からの引継ぎ事例・情報交換	26名
12	7	明石・加古川エリア 土地・建物の登記と相続について	22名
	14	神戸エリア 専門職後見人としての「意思決定支援」	28名
	15	柏原エリア 「明日からでもできる後見受任」②	12名
2	5	明石・加古川エリアとリーガルとの合同勉強会 ワンポイント民法・ワンポイント福祉拡大版「特別養護老人ホームに入所してもらおうと思ったときに聞く話」	16名
2	22	伊丹エリア 後見活動と意思決定支援について	28名

※3月21日尼崎エリア、3月28日神戸エリア研修会は、新型コロナウイルス予防のために、開催中止。

(2) 運営委員会の開催

毎月第4土曜日（10時～12時）福祉センターにて運営委員会を開催した。

(3) 全体会議の開催

4月27日（土）に登録者の全体会を開催し209名の参加者があった。

(4) 成年後見人材育成研修（認証研修）は、定員に達せず、開催中止。

京都社会福祉士会にて5名が受講。

(5) 日本社会福祉士会主催「意思決定支援セミナー」への運営委員派遣。

2 後見活動報告書の提出と名簿登録

(1) 今年度の期限内未提出者は5名であったが運営委員が提出を促し、受任中の全会員に提出していただいた。

(2) ぱあとなあ兵庫名簿登録者は506名。未成年後見追記登録7名。

3 家裁への後見人等の推薦

今年度は家裁からの推薦依頼が順調に推移し、156件を推薦した。明石市をはじめとする自治体や地域包括支援センターからの依頼23件に候補者として推薦した。

4 他団体との連携

(1) 家裁との連携

奇数月に神戸家裁本庁との定例連絡会を開催。委員長含め5名が出席。

(2) リーガルサポートとの連携

エリア別研修会でもリーガルとの合同勉強会や講師とする取組みを各地で実施した。

(3) 講師・委員の派遣

自治体や社協等からの要請により、講師や委員の派遣を行なった。

(4) ぱあとなあ近畿ブロック会議

ぱあとなあ近畿ブロック会議が10月5日大阪で開催され参加した。

5 その他

(1) 権利擁護に関する相談が事務局に寄せられ、運営委員が対応をした。

3 委員会開催日 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、2月は中止。

月	日	参加人数	場 所
4	27	31名	兵庫県福祉センター
5	25	24名	兵庫県福祉センター
6	15	25名	兵庫県福祉センター
7	27	24名	兵庫県福祉センター
8	24	30名	兵庫県福祉センター
9	14	20名	兵庫県福祉センター
10	19	27名	兵庫県福祉センター
11	16	20名	兵庫県福祉センター
12	14	16名	姫路市
1	25	27名	兵庫県福祉センター
3	28	20名	兵庫県福祉センター

1 総括

2019年度は、第7期の介護保険制度改正による地域支援事業の制度設計の組み直しから新総合事業が本格的に実施された2年目となり、高齢者福祉は、より保険者ベースの課題解決に向けた取組みとなった。総合相談支援の中身も多様化し、センター業務の困難さが見えてきた一年でもあった。昨年、本格導入となった運営評価においても、2年目を迎える中でセンター全体の質の担保の強化も求められた年度であった。また、委員会を通じて情報交換を継続してきたが、地域ケア会議の開催やフレイル対策なども地域単位で実践化が求められることが基本となり、実務の手順や優先すべき事項などは、保険者の実情との兼ね合いから、県下の地域包括支援センターとしての標準化や平準化にも課題を感じる1年であった。

更には、地域包括支援センター職員への継続的な支援が必要な一方で、依然として職員の離職率が高いなど、チーム力の向上を目指した職員体制への支援も同時に課題となっている。当委員会では、兵庫県
の委託事業として対応困難事例を通じたチームアプローチの強化や職員の困難事例への対応力向上を基礎とした研修プログラムを開発して実施した。参加した会員をはじめ受講者がセンター業務の展開をイメージ化し、地域住民から本来期待されている役割を円滑に遂行できるように地域包括支援センター職員への支援を行った。機関連携としては、高齢者虐待対応専門職チームや地域包括支援センター関連三職種団体連絡会等、多職種との連携協働を図りながら、年間計画を実施している。

委員会活動を支える委員は、定例会議を通じて意見交換を図りお互いを支え合い高め合ってきた。今年度はこうした委員会活動に興味や関心を持った会員が複数名、委員会メンバーとして参加をしている。

2 事業報告

- (1) 地域包括支援センター支援委員会定例会 (3ヶ月に1回開催)
- (2) 三職種団体との定期的な連絡会 (3~4ヶ月に1回程度開催)
- (3) 研修の企画・実施
地域包括支援センター初任者研修 令和元年5月20日
困難事例対応力向上研修 令和元年6月18日~12月12日 計8回
- (4) 各ブロックとの合同情報交換会の開催
今年度は合同情報交換会を開催できず。
- (5) その他、地域包括支援センターの社会福祉士に対するバックアップ機能の強化
当該委員会への見学を随時受入れし、委員会メンバーへの参画もしていただいた。

3 委員会開催日

(1) 定例会他

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	14	13名	高齢者ケアセンター ながた	定例会
4	17	3名	関西学院大学	「困難事例対応力向上研修」講師打ち合わせ
5	20	8名	兵庫県福祉センター	「困難事例対応力向上研修」打ち合わせ
5	21	3名	兵庫県福祉センター	地域包括支援センター関連三職種団体連絡会
6	1	4名	三ノ宮	「困難事例対応力向上研修」演①打ち合わせ
7	14	12名	高齢者ケアセンター ながた	定例会
8	2	7名	三ノ宮	「困難事例対応力向上研修」演②打ち合わせ
8	23	3名	兵庫県福祉センター	地域包括支援センター関連三職種団体連絡会
9	6	8名	神戸市勤労会館	「困難事例対応力向上研修」演②打ち合わせ
9	20	3名	神戸私学会館	地域包括支援センター関連三職種団体連絡会
10	13	11名	高齢者ケアセンター ながた	定例会
1	12	11名	高齢者ケアセンター ながた	定例会
1	16	3名	兵庫県福祉センター	地域包括支援センター関連三職種団体連絡会
2	8	10名	三ノ宮	「困難事例対応力向上研修」演②振り返り
2	23	14名	兵庫県福祉センター	臨時委員会 2019年度振り返り 次年度計画
3	11	8名	兵庫県福祉センター	「困難事例対応力向上研修」2020 打ち合わせ
3	15	4名	三ノ宮	「困難事例対応力向上研修」2020 打ち合わせ
3	24	6名	兵庫県福祉センター	「困難事例対応力向上研修」2020 打ち合わせ

(2) 研修他

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	20	29名	兵庫県福祉センター	地域包括支援センター 初任者研修
6	18	44名	兵庫県福祉センター	困難事例対応力向上研修 共通研修①
6	24	21名	兵庫県福祉センター	困難事例対応力向上研修 演習 1-①
7	17	18名	姫路じばさんビル	困難事例対応力向上研修 演習 1-②
8	1	26名	兵庫県福祉センター	困難事例対応力向上研修 演習 1-③
8	20	27名	姫路じばさんビル	困難事例対応力向上研修 共通研修②
10	4	40名	兵庫県福祉センター	困難事例対応力向上研修 演習 2-①
11	6	24名	兵庫県福祉センター	困難事例対応力向上研修 演習 2-②
12	12	19名	姫路じばさんビル	困難事例対応力向上研修 演習 2-③
9	20	46名	神戸私学会館	地域包括支援センター関連三職種団体連絡会研修会

* 困難事例対応力向上研修参加者実人員 141名 延 219名

1 総括

2019 年度はスクールソーシャルワーカー研修をさらに発展させ、会員に研修機会を提供することができた 1 年となった。認証研修として 2018 年度から引き続き 2 年目の開催となったスクールソーシャルワーカー養成研修は、参加者の約半数は児童分野関連で現在活躍中の方の参加であり、およそ 1/4 は県外からの参加者であった。スクールソーシャルワーク関連の研修として県内外から期待をもって参加していただけたことが窺える。また新たに、教育現場で実践しているスクールソーシャルワーカー向けに、当委員会のメンバーとしても活躍いただいている講師の先生と連携しスキルアップ研修を実施することができた。この研修は教育委員会の後援を受け多くの教育委員会主事の先生方にも参加していただき、教育委員会との今後の協働を構築していく礎とすることができた。1 年を通じて委員会の新規見学申し込みも多く、そのまま入会していただきメンバーの増員により委員会としての幅も広がった。2020 年度はさらにこれらの研修を軌道に乗せ、充実発展させつつ、メンバー一人一人の得意分野と強みと熱い想いを活かしたこども・家庭支援分野に関する活動も展開していけるよう検討をすすめていきたい。

2 事業報告

- (1) 委員会定例会 開催 (4 月、5 月、6 月、9 月、10 月、11 月、1 月、2 月) 計 8 回
- (2) スクールソーシャルワーカー養成研修 (認証研修) 実施 7/27~7/28 2 日間
- (3) スクールソーシャルワーカー研修 (基礎編) 実施 10/27
- (4) SSW のスキルアップを目指すキックオフ研修 実施 2/22
- (5) 兵庫県立高等学校におけるいじめ重大事態に関する調査委員紹介
- (6) 神戸市教育委員会いじめ問題調査委員会へ委員紹介

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	14	11 名	兵庫県福祉センター事務局	2019 年度の委員会の体制、研修計画・重点項目の確認
5	19	9 名	神戸生活創造センター	SSW 認証研修の内容検討
6	30	8 名	兵庫県福祉センター事務局	SSW 認証研修の打ち合わせ
9	29	13 名	兵庫県福祉センター事務局	認証研修の振り返り、研修 (基礎編) 内容検討
10	27	12 名	兵庫県福祉センター事務局	研修 (基礎編) 打ち合わせ、準備
11	9	8 名	兵庫県福祉センター事務局	研修振り返り、来年度研修計画
1	11	8 名	兵庫県福祉センター事務局	2 月研修の内容検討、予算案検討
2	22	7 名	兵庫県福祉センター事務局	研修打ち合わせ、準備

1 総括

2019年度は「2018年度優秀実習施設表彰」を実施した。兵庫県下の社会福祉士養成校より「優秀実習施設・実習指導者」を推薦頂き、7月の社会福祉士実習教育支援者研修にて6施設より実習指導実践報告を受け、すべての施設を「優秀実習施設」として表彰、30名程の参加があった。「社会福祉士実習指導者講習会」は毎年1回開催を継続しており、2019年度は114人が修了。受講者で配慮が必要な方が数名おられ、要約筆記、手話通訳で対応した。養成校に出向いて実習生と現役社会福祉士が直接対話する「学生交流会」は、社会福祉士の存在意義をアピールすることで後進の育成につなげる活動で、養成校でも定着し定期的な依頼が来るようになっている。

2月の「近畿ブロック研究・研修 京都大会」において、近畿ブロック他県士会実習担当者との連携により「プレ企画」を実施し、47名の参加があった。本年度は委員会の開催日数を極力減らし、委員との打ち合わせではメール等の活用を行い、一昨年よりも委員会開催日数を3回削減した。

2 事業報告

1) 『研修等事業』

月	日	参加人数	場 所	内 容
7	20	30名	兵庫県福祉センター事務局	社会福祉士実習教育者研修（優秀実習先表彰含む）
11	23	114名	兵庫県福祉センター事務局	実習指導者講習会
11	24			
2	1	1名	京都平安ホテル	近畿ブロック兵庫大会プレ企画

2) 『学生交流会』

月	日	参加人数	場 所	内 容
10	24	3名	関西学院大学	障害分野、母子分野、社協
10	31	3名	関西学院大学	救護、児童
11	7	3名	関西学院大学	病院
12	13	3名	神戸親和女子大学	高齢分野、病院

3) 『近畿ブロック実習担当者会議』

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	20	2名	大阪社会福祉士会	第1回 実習指導者講習会について
7	7	1名	大阪社会福祉士会	第2回 実習指導者講習会について プレ企画について
9	8	1名	大阪社会福祉士会	第2回 プレ企画ワーキング
11	10	1名	大阪社会福祉士会	第3回 実習指導者講習会について プレ企画について
1	11	1名	大阪社会福祉士会	第3回 プレ企画ワーキング シュミレーション
2	2	1名	京都平安ホテル	第4回 プレ企画の反省等、次回会議4月25日

4) 『養成校連絡会』

月	日	参加人数	場 所	内 容
10	10	18名	神戸勤労会館	第16回 養成校における相談援助実習以外の社会福祉現場との関わり

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	4	9名	兵庫県福祉センター事務局	第108回委員会 優秀実習施設へのヒアリングの検討
5	9	10名	兵庫県福祉センター事務局	第109回委員会 優秀実習施設へのヒアリングの日程調整
6	6	9名	兵庫県福祉センター事務局	第110回委員会 7月20日社会福祉士実習教育支援者研修打合せ
9	12	7名	兵庫県福祉センター事務局	第111回委員会 第16回養成校連絡会の準備 近畿ブロック実習指導者担当者会議報告 7月20日社会福祉士実習教育支援者研修振返り 学生交流会の講師調整（関学の秋学期のソーシャルワーク実習指導Ⅰの授業の出講、神戸親和女子大学相談援助実習指導Ⅰの出講）
1	16	10名	三宮	第112回委員会 事業計画について （優秀実習先表彰を7月の平日開催にする）

1 総括

2019 年度の委員会活動は、事業企画だけでなく、ネットワーク拡大に向けた取り組みをスタートさせるなど、独立型社会福祉士の横のつながりに力を入れた 1 年となった。

「兵庫社会福祉セミナー in 東播」の午後プログラム「倫理学習」は、非常に活発な意見交換と自己研鑽の場の提供となった。また、朝来市で開催を予定していた当委員会のもっとも大きな事業である「独立型社会福祉士実践報告会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため急遽延期せざるを得なくなった。だが、日頃交流の少ない県北部の会員からの申し込みも多く、今後のネットワーク拡大の一つの布石になったのではないだろうか。

年 3 回の配信となったメールマガジンも例年に続き、より多くの会員の参加を促しネットワーク構築の一端となるべく編集内容を都度検討した。また、当委員会発足当時より検討されてきた「独立型事業所マップ」作成については目的や用途などについて協議し、具体化に向けて一歩ずつ進めている。

2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	27		dommML	メルマガ「夢ふうせん」 vol.26
8	23		dommML	メルマガ「夢ふうせん」 vol.27
11	10	30 名	明石市立産業交流センター	兵庫社会福祉セミナー in 東播「倫理学習」
12	4		dommML	メルマガ「夢ふうせん」 vol.24

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	17	5 名	兵庫県福祉センター	委員会役員を選出、年間事業計画について 定例委員会、メールマガジン発行について
6	19	5 名	兵庫県福祉センター	倫理学習会 日程決定。内容を東播ブロックと協議 実践報告会 但馬・丹波ブロックとの交流について
8	21	6 名	兵庫県福祉センター	倫理学習会 内容決定 実践報告会 登壇者の選定 メールマガジン 8～9 月中に発行で調整
10	23	4 名	兵庫県福祉センター	倫理学習会 当日の流れ最終確認 実践報告会 登壇者決定、ブロックとの連携について
1	27	4 名	兵庫県福祉センター	実践報告会 開催に向けた最終確認 メールマガジン 実践報告会後に発行で準備を始める
3	26	6 名	兵庫県福祉センター	2020 年度事業計画について 独立型社福士マップ作成に向けた準備について 第 17 回独立型全国実践研究集会 in 大阪について (パネリスト紹介の依頼が大阪委員長より入る)

1 総括

2019年度は、数名の新しいメンバーが加わり、毎回の委員会出席率も上がって、前年度以上に活発な委員会活動を展開することができた。特に実際に障がい福祉の現場で働く人や、当事者と身近に関わっている人が委員会に加わったことにより、委員会における議論もより具体的かつ実践的なものに発展してきた。

2018年度に実施した認証研修を2019年度にも実施する方向で計画していたが、受講者確保の観点等から2019年度の実施は見送ることとなった。一方で、委員会メンバーからは「やはり自分たちの主体的な学習を続けていきたいし、また委員会メンバー以外にも障がい福祉への理解と関心を高めてもらうような活動が必要ではないか」との意見が多く出され、2019年度のほぼ1年間をかけて委員会企画の研修会「発達障がい児・者と家族の支援について学ぶ研修」を実施することができた。

2 事業報告

(1) 委員会企画の「発達障がい児・者と家族の支援について学ぶ研修」の実施

委員会独自の企画・運営により、2月16日（日）午後に神戸市立東部在宅障害者福祉センターにおいて半日の研修会を開催した。講師として姫路の「行動障害支援センターのぞみ」の天野一雄センター長をお招きし、発達障がいの基礎知識、「問題行動」とされるものの背景要因などについての解説のほか、特に強度行動障がいと呼ばれる特性をもつ人たちへの支援における具体的なエピソードの紹介などがあつた。定員50名に対して参加者は40名であった。参加者の中には医療・福祉・教育・療育などの専門職に加えて、当事者の家族もおられ、発達障がいに対する関心の高さが窺えた。

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	21	6名	神戸市東部在宅障害者福祉センター	今年度の委員会活動の体制・計画の確認及び委員会主催の研修会の企画
6	9	8名	神戸市東部在宅障害者福祉センター	本会主催「はじめのいっぽ」に向けての準備及び委員会主催の研修会の企画
8	11	10名	神戸市東部在宅障害者福祉センター	委員会主催の研修会の企画
10	13	10名	神戸市東部在宅障害者福祉センター	委員会主催の研修会の企画
12	22	11名	神戸市東部在宅障害者福祉センター	次年度の活動に関する意見交換及び委員会主催の研修会「発達障がい児・者と家族の支援について学ぶ研修」の企画
2	19	10名	神戸市東部在宅障害者福祉センター	次年度の活動に関する意見交換及び委員会主催の研修会「発達障がい児・者と家族の支援について学ぶ研修」の準備
2	16	14名	神戸市東部在宅障害者福祉センター	「発達障がい児・者と家族の支援について学ぶ研修」

1 総括

少しずつ委員数が増え、会議室を借りて 2 か月に 1 回の定例会は継続できた。定例会では、ミニ学習会を開催し、委員会活動と共に委員の更生支援のスキルアップを図った。

施設参観及び研修については、いずれも盛会であった。

2 事業報告

- (1) 神戸地方裁判所・神戸地方検察庁参観 2019 年 12 月 3 日 (火) 45 名参加
- (2) フォレンジック・ソーシャルワーク研修 2020 年 2 月 23 日 (日) 27 名参加
- (3) 毎月の触法障害者等の弁護・支援 P T 出席

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	17	16 名	兵庫県福祉センター	報告事項、今年度の委員会活動について、委員会体制、ミニ学習会他
7	19	15 名	兵庫県福祉センター	報告事項、施設参観について、ミニ学習会他
9	20	21 名	兵庫県福祉センター	報告事項、施設参観開催と研修会について、ミニ学習会他
11	15	21 名	兵庫県福祉センター	報告事項、施設参観振り返りと研修会について、ミニ学習会他
1	17	22 名	兵庫県福祉センター	報告事項、触法障害者等の弁護・支援 P T 報告、フォレンジック・ソーシャルワーク研修について、ミニ学習会他
2	23	18 名	兵庫県中央労働センター	フォレンジック・ソーシャルワーク研修の報告及び振り返りと次年度活動について他

1 総括

総務委員会内に設置された退院支援アドバイザーを支援する「退院支援チーム」を2014年度より地域移行支援委員会と名称を改め委員会活動となった。

これまでの「退院支援」に関するノウハウを生かした本会独自の地域移行支援活動の検討及び退院支援員及び精神障害者に係る機関等に対する支援や学習を行った。

2 事業報告

- (1) 神戸市および伊丹市等に勤務する退院支援員（社会福祉士）に対する助言、支援
- (2) 地域移行支援委員会設置による退院支援に関する専門研修の企画、調査研究活動
- (3) 退院支援員（社会福祉士）に対する助言、支援
- (4) 地域移行支援委員会の開催（5月、7月、11月、1月の隔月 4回開催）
退院支援員の活動報告及び各委員からの情報交換を行った。
3月も委員会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止とした。
- (5) 地域移行に関する専門研修（拡大学習会）の実施
9月26日（木）19時～20時30分 神戸市勤労会館
内容：地域包括ケアにおける開業医の役割（講師：勝谷 友宏医師）
参加者：23人
兵庫県精神保健福祉士協会及び兵庫県医療ソーシャルワーカー協会の共催。
開業医の先生が日々往診や在宅診療をすすめるなか、病院や訪問看護師と連携を図りながら、どのように地域包括ケアを進めているのかを具体的にお聞きし、地域包括ケアに向けた必要な取り組みについて考える機会となった。

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	23	8名	兵庫県福祉センター	情報交換他
7	26	8名	兵庫県福祉センター	情報交換他
9	15	13名	三宮勤労会館	拡大学習会
11	22	8名	兵庫県福祉センター	情報交換他
1	24	12名	兵庫県福祉センター	情報交換他
3	26	新型コロナウイルス感染予防のため中止		

1 総括

2015 年度から施行された生活困窮者自立支援法は、生活困窮者に対し、自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給、その他の支援を行うための所要の措置を講ずるものである。

委員会では、現状報告や課題の把握に努めるとともに、昨年度、一昨年度に引き続き、認証研修「滞日外国人ソーシャルワーク研修」の運営および組織化を目指してミニ学習会を開催した。

生活困窮者の課題は現在の社会保障制度や福祉制度やサービスで十分対応できない「制度のはざま」の課題や、引きこもりの増加や「8050 問題」に象徴される「社会的排除」、「社会的孤立」の課題である。これらの解決に向けて、現行制度上位置づけられている高齢者・障害者・児童等の相談援助機関が相互に協働していく必要がある。また、入国管理法改正に伴う「外国人労働者の増加」にともなう地域における生活課題が複雑化することが予想される。今後の社会情勢の不確実性は顕著になり、生活困窮者の課題がさらに顕在化することから、改めて「地域共生社会づくり」に向けて、医療・福祉関係者や外国人支援者等に広く参加を呼び掛けて、新たな社会資源の創造を働きかけていきたい。

2 事業報告

- (1) 定例委員会での情報提供や現場からの課題の報告
- (2) 旧ホームレス支援委員会からの継続事業への協力
- (3) 認証研修「滞日外国人ソーシャルワーク研修」の運営
- (4) 滞日外国人支援委員会の組織化のためのミニ学習会の開催
- (5) 生活困窮者支援を考えるための研修会の開催
- (6) 地区ブロック活動との連携・阪神ブロックへの情報提供

ホームレス支援

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	29	8 名	武庫川河川敷、武庫大橋の北東（尼崎側）付近	兵庫県弁護士会の実施する「生活再建相談会」に協力 武庫川河川敷でホームレスに対する相談援助を実施
11	16	6 名		

「滞日外国人ソーシャルワーク研修」（7月27日（土）、7月28日（日）開催）

受講者 21 名（非会員含む） 修了者 14 名

当委員会委員が分科会・運営進行のファシリテーターを務める。

*修了者とは「認定社会福祉士」資格取得のためのレポートを提出し、合格された方。

地区ブロック活動との連携

阪神ブロック役員会に出席し、情報交換や進捗報告等を行う

研修会 生活困窮者の「入口」と「出口」を支えて～就労支援を考える～

月	日	参加人数	場 所	内 容
2	23	38名	福祉センター	<p>○生活困窮者の「入口」と「出口」を支えて～就労支援を考える～</p> <p>第1部 基調報告 「地域共生・地域の支え合いの実現が求められる現状について」 日本社会福祉士会 生活困窮者支援委員会委員 近藤 健太さん（本会会員）</p> <p>第2部 パネルディスカッション 「入口支援」と「出口支援」としての「就労支援」を考える パネリスト 神戸市長田区福祉事務所 近藤 健太さん 芦屋市社会福祉協議会 相談支援係係長 三谷百香さん 神戸市障害者就業・生活支援センター 主任就業支援員 畑中 浩成さん NPO 法人ウィークタイ代表理事 泉 翔さん</p> <p>コーディネーター 兵庫県社会福祉士会生活困窮者支援委員会 委員長 谷口 智昭</p>

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	7	11名	兵庫県福祉センター	<p>1 ミニ学習会 (1)「障害者就業・生活支援センターについて～多制度との連携のために～」委員長 谷口智昭 2 協議事項 今年度計画について</p>
6	2	13名	兵庫県福祉センター	<p>ミニ学習会「ビッグイシューとは」 お話 事務局 高野太一さん 販売者 小川さん</p>
10	6	11名	兵庫県福祉センター	<p>(1)報告事項 7/27・28 開催「滞日外国人ソーシャルワーク」 (2)協議事項 ①2/22 開催予定の研修内容について ②滞日外国人支援委員会の組織化の進捗について ミニ学習会</p>
12	1	12名	兵庫県福祉センター	<p>(1) 2月23日開催の研修会の内容について (2) 2020年度事業計画・予算について</p>
2	23	7名	兵庫県福祉センター	<p>(1) 研修会について 最終確認 (2) 次年度事業計画・事業予算について (3)ミニ学習会について (報告)</p> <p>6/2 外国人と国民健康保険 16人参加 10/7 外国人と生活保護制度 14人参加 12/1 外国人と年金 12名参加 いずれも講師は齋本 郁氏（本会会員・NPO 法人神戸の冬を支える会理事） *組織化に至らず、2020年度も組織化に向けて活動を継続</p>

1 総括

当委員会は 2017 年 1 月に発足した。2019 年度は、5 月に近畿ブロックの共催で認証研修「災害支援活動者養成研修」を実施し、受講者のフォローアップとして、2020 年 2 月の近畿ブロック大会・京都プレ企画で、熊本地震の教訓と課題を学ぶ研修を行った。

また 10 月の台風 19 号による風水害では長野県や東北各県に被害が発生し、日本社会福祉士会に対して災害支援金を送金するとともに、情報収集等を行った。

県からの委託事業として実施した「防災と福祉の連携促進事業」は全県下に拡大して、要援護者支援に関する個別支援計画づくりを進めたが、委員会としては十分な協力を行えなかった。

2 事業報告

○Facebook ページ「兵庫県社会福祉士会災害支援委員会」の運営

< 県委託事業 >

○兵庫県防災と福祉の連携促進モデル事業

(人材育成事業)

- ・福祉専門職対象防災対応力向上研修

(全県下) 36 市町で事業実施

- ・災害時ケアプラン策定事業

- ・災害時個別支援計画のためのワークショップ

(その他)

- ・防災と福祉の連携促進シンポジウム (中止)

< 近畿ブロック >

○認証研修

5 月 25 日 (土) ~ 26 日 (日) 災害支援活動者養成研修 / 大阪社会福祉会館

(フォローアップ: 2 月 1 日 (土) 近畿ブロック大会・京都プレ企画)

○情報共有

Facebook ページ「社会福祉士会近畿ブロック災害支援チーム」の運営

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
10	25	5 名	兵庫県福祉センター	台風 19 号風水害に関する情報交換、意見交換
3	22	7 名	兵庫県福祉センター	2020 年度事業計画及び委員会体制、意見交換

1 総括

広く県民の方が利用できるよう、利用対象の拡大を図るとともに、2013年4月より愛称「福祉相談センター ここねっと兵庫」として事務局職員（相談員・ぱあとなあ業務兼務）を配置して行った。

相談件数は少ないため、今後さらに福祉相談センターの周知を図る必要がある。また、総合的な相談が増加し、構成委員会との連携を強化するとともに、包括的取り組みができるセンター機能の向上が必要となってきた。

2 事業報告

- (1) 毎日の相談受付と相談業務（構成委員会と連携を図りながら相談員による回答を行う）

構成委員会メンバー

- ①ぱあとなあ兵庫
- ②相談委員会
- ③ソーシャルワーク研究委員会
- ④こども家庭支援委員会
- ⑤高齢者・障害者虐待対応委員会
- ⑥地域包括支援センター支援委員会
- ⑦生活困窮者支援委員会
- ⑧障がい福祉委員会
- ⑨更生支援委員会
- ⑩研修委員会

- (2) 「ここねっと兵庫・ネットワーク会議」の開催（適宜）

- (3) 相談件数 36件

1 総括

当センターは、新生涯研修制度における基礎研修の企画・運営とともに、研修を開催する各委員会や地区ブロックによる研修の内容、日程の調整を行うことを目的として2013年度から立ち上がった。

2019年度は、前年度に引き続き、生涯研修センター担当理事及び委員長による生涯研修センター運営会議を4回開催したほか、認定社会福祉士の認定を受けるために必要な認証研修の企画やスーパービジョン体制の構築などの整備を行った。

2 事業報告

- (1) 生涯研修センター運営会議の開催 5月11日、10月26日、12月21日、2月15日 (4回)
- (2) 基礎研修講師調整会議の開催 3月1日
- (3) スーパービジョン研修受講生の推薦 5名 (合計SV登録者24名)
- (4) スーパービジョンの開催 25名受講
- (5) 認証研修の開催
 - 滞日外国人ソーシャルワーク研修 14名修了 (24名申込)
 - 高齢者虐待対応研修 34名修了 (35名申込)
 - 災害支援活動者養成研修 61名修了 (73名申込)
 - スクールソーシャルワーカー養成研修 24名修了 (34名申込)
- (6) 基礎研修の開催
 - 基礎研修Ⅰ 82名修了 (98名申込)
 - 基礎研修Ⅱ 89名修了 (98名申込)
 - 基礎研修Ⅲ 49名修了 (53名申込)

1 総括

2019年度は、「ソーシャルワーカーデー2019 in ひょうご」「兵庫社会福祉セミナー」「会員交流事業(忘年会)」の企画・運営を担当。

- (1) 「ソーシャルワーカーデー2019 in ひょうご」については、昨年度に引き続いて兵庫県介護福祉士会、兵庫県精神保健福祉士協会、兵庫県医療ソーシャルワーカー協会、兵庫県介護支援専門員協会の4団体と共催した。会場はあかし市民広場で開催。かなりの道行く人が立ちよったことで、ソーシャルワーカーの認知度を向上させることができた。5月、9月、2月には「ソーシャルワーカー関係5団体代表者会議」を開催し、5団体の協力関係をより一層深めることができた。
- (2) 「兵庫社会福祉セミナー」を11月に東播ブロックで開催。
今年度は東播ブロックの尽力により、30名の参加があった。
- (3) 「忘年会」を12月に開催。会員の親睦・交流をはかることができた。しかし、年々参加者が減少しており、今後の開催方法・プログラムなど、検討が必要。

2 事業報告

(1) ソーシャルワーカーデー2019 in ひょうご

日時：2019年7月14日 10時30分～16時00分 参加人数：延べ約2000人

会場：あかし市民広場

主催：兵庫県社会福祉士会、兵庫県介護福祉士会、兵庫県精神保健福祉士協会、
兵庫県医療ソーシャルワーカー協会、兵庫県介護支援専門員協会

内容：団体紹介パネル展示、チラシ配布、福祉なんでも相談コーナー、
福祉ミニ講座、マジックショー、統合失調症・発達障害模擬体験、
クラウンパフォーマンズ、フルートの演奏、フラダンス、クイズラリー、
被災地支援物品販売、スーパーボールすくい、インスピレーションアート、
協賛ブース出展・販売など

社会福祉士会からの参加スタッフ：30名

ソーシャルワーカーデー2019 in ひょうご担当者会議 2018年9月からほぼ毎月開催。

介護福祉士会・精神保健福祉士協会・介護支援専門員協会・医療ソーシャルワーカー協会
社会福祉士会の各団体より1～2名が担当者として出席。

ソーシャルワーカーデー2019 in ひょうご担当者会議 開催日

日時	参加人数	場所	内容
'18年9月23日	10名	兵庫県立神戸生活創造センター	前回反省、開催日、開催場所、企画内容
'18年11月24日	13名	ウィズあかし	会場下見、会場利用条件確認、予算
1月6日	15名	兵庫県立神戸生活創造センター	日程・会場、プログラム、協賛募集
2月11日	13名	ウィズあかし	会場について、プログラム・ブース案
3月3日	8名	兵庫県立神戸生活創造センター	広報、クイズラリー、会場レイアウト
4月14日	12名	兵庫県立神戸生活創造センター	プログラム、広報、協賛・広告、後援
5月12日	10名	兵庫県立神戸生活創造センター	ミニ講座、ブース、役割分担
6月16日	12名	兵庫県立神戸生活創造センター	協賛、プログラム、クイズラリー
7月7日	15名	兵庫県福祉センター	クイズラリー景品準備・ミニ講座

(2) 第19回 兵庫社会福祉セミナーin 東播

開催日：2019年11月10日（日）10:30～16:00 参加者数 30名

会場：明石市立産業交流センター

プログラム

【第1部】10:30～12:00 記念講演 「ソーシャルワークと福祉教育・人材育成について」

兵庫大学生涯福祉学部社会福祉学科 学科長 教授 和田光徳氏

【ランチセッション】12:00～13:00 協賛企業各社によるミニセミナー&福祉用具等展示

【第2部】13:00～14:00 研修 「倫理学習」（協力：独立型社会福祉士支援委員会）

【第3部】14:30～16:00 シンポジウム 「ソーシャルワーカーを育成する教育とは」

(3) 会員交流事業「忘年会」

日時：2019年12月21日 参加人数：23名

会場：兵庫県福祉センター

1 総括

全国的に社会福祉士資格取得者の組織化率（全国平均）は19%台から18%台へと下がり、年々低下傾向にある。組織力向上に重点的に取り組んだ本会の会員数は着実に増加し、組織率も15%台で踏みとどまっている。

このような状況の中、さらに組織力の向上や本会の発展に中・長期的観点から一層取り組む必要があり、「兵庫県社会福祉士会 2020・5ヵ年発展計画」に基づき、着実に組織力向上を図ってきた。

組織力向上戦略会議（以下「戦略会議」という）において、入会促進及び退会防止策等について具体的な方策を検討し、PRビデオの製作をはじめ、引き続き「入会促進キャンペーン」や新入会イベント「はじめのいっぽ♪」などを実施した。

2020年度は「兵庫県社会福祉士会 2020・5ヵ年発展計画」の最終年度となるため、これまで実績を評価するとともに、新たな第2期計画策定に取り組んでいく。

2 事業報告

- (1) 戦略会議の開催（年10回）
- (2) 入会促進対策及び退会防止対策の強化（会員数1,745名、入会者136名、退会者70名）
 - 新入会員への説明会（はじめのいっぽ♪）6月（年1回）
 - 入会促進キャンペーン（春・秋）・法人賛助会員（3団体）
- (3) ソーシャルワーク関係専門職団体との連携強化（SWD、合同研修、代表者会）
- (4) 会員組織の活性化（基礎研修OB会・集い場の拡大）
- (5) ソーシャルワーク実践の促進（実践報告会における会長表彰）
- (6) 未成年後見の準備（未成年後見基本研修の開催、法人後見の検討）
- (7) 兵庫県社会福祉士会・第2期計画の検討（アンケート、地区ワークショップ）

その他兵庫県からの受託事業

住宅確保要配慮者居住支援事業

1 概要

この事業は、住宅確保要配慮者の住まい確保を含む居住支援を行っている団体の発掘及び育成を図ることを目的とした「平成 29 年度ひょうご居住支援団体発掘・育成支援事業」への応募に端を発する。その後、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律（通称：新たな住宅セーフティネット法）に基づく、「居住支援法人」に 2018 年 5 月 31 日に指定された。主な居住支援業務は、円滑な入居の促進に関する援助（入居前支援）と生活の安定及び向上に関する援助（入居後支援）である。

2019 年度は、国の居住支援法人活動支援事業補助金（期間：2019 年 8 月 1 日～2020 年 1 月 31 日）を受けつつ、1 年間継続して事業を実施した。また、一般財団法人神戸すまいまちづくり公社と「高齢者住み替えの同行支援業務」に関する委託契約（委託期間：2019 年 7 月 1 日～11 月 30 日）を結んだ。

2 事業報告

- (1) 相談件数：延べ相談対応件数 132 件、相談実人数 28 人、延べ同行支援件数 39 件
- (2) 神戸市「高齢者住み替えの同行支援業務」：相談件数 1 件（同行支援には至らず）
- (3) 研修会の出席：神戸市居住支援協議会や、ひょうご住まいづくり協議会主催の研修会に出席し、他の居住支援法人や、社会福祉協議会、行政（生活保護課、介護保険課等）等の関係機関との交流を深め、情報交換を行うなどし、本会の活動内容の普及に努めた。
- (4) 神戸市居住支援協議会が作成している『高齢者の住まいに関する相談対応マニュアル』の改訂に協力した。
- (5) 平日の 10 時から 16 時まで電話相談窓口を本会事務局内に設置して、相談支援員を常時配置した。

医療的ケア児等コーディネーター養成研修等事業

1 概要

医療技術の進歩等を背景としてNICU等に長期間入院した後、引き続き人工呼吸器や胃瘻等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障害児（医療的ケア児）が増加している。

この事業は、医療的ケア児が地域において必要な支援を受けることができるように、また、医療的ケア児等が地域で安心して暮らしていけるように、支援者養成研修ならびにコーディネーター養成研修を開催し、地域において医療的ケア児等に対する支援が適切に行える人材を養成することを目的としている。

2 事業報告

- (1) 医療的ケア児等支援者養成研修（2 日間）
 - ・神戸会場 1 日目 85 名 2 日目 106 名
 - ・姫路会場 1 日目 80 名 2 日目 57 名
- (2) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修（2 日間）
 - ・神戸会場 1 日目 81 名 2 日目 80 名
 - ・姫路会場 1 日目 38 名 2 日目 38 名

障害者差別解消相談センター事業

1 概要

2016年度より始まったこの事業は、障害者差別解消法第14条の規定により、障害者差別に関する紛争の防止や解決に必要な体制を整備するため、県障害福祉課内に「障害者差別解消相談センター」を設置し、県職員とともに専門職である社会福祉士と精神保健福祉士が、障害者等からの相談等に対応するものである。

2 事業報告

本会と兵庫県精神保健福祉士協会から、1日1名の相談員を県に派遣した（平日10～16時）。
本会からは15名の会員が障害者等からの電話相談に対応するとともに、社会資源等の案内を行った。

防災と福祉の連携促進モデル事業

1 概要

本事業は、主に福祉専門職を対象とした「防災対応力向上研修」、地域住民が参加する「地域モデル事業」の二本立てとなっている。

「防災対応力向上研修」は、ケアマネジャーや相談支援専門員といった福祉専門職が防災に関する知識を身につけ、適切な個別支援計画や地域づくりに取り組むことを目指す。「地域モデル事業」は、要支援者と地域住民、福祉専門職が協力して準備を進め、住民が中心となって避難訓練を実施し、地域の防災力を高めることを目標としている。

2 事業報告

- (1) 市町職員を対象とする実務者研修会・中間進捗状況確認会議
実務者研修会 4月15日から25日、県内4会場・計4回、受講者数122名
中間進捗状況確認会議 9月13日、兵庫県学校厚生会館、参加者数88名
- (2) 福祉専門職を対象とする防災対応力向上研修
5月28日から12月12日、県内8会場・計10回、受講者数462名
- (3) 地域モデル事業
県内36市町において、様々な取り組みを実施。本会の連携支援員は福祉理解研修の講師や事業の取材等に携わった。
- (4) 事業に関わった行政の全部署とモデル地区の地域住民組織責任者対象の意識調査
調査票では、行政内部での協働及び地域や福祉専門職との連携、本事業に取り組む前と後の意識の変化、地域の防災力向上への課題などについて尋ねた。
回答数／行政担当部局：36市町49部署 住民組織責任者：34市町42名
- (5) 事業報告書
防災と福祉の連携促進モデル事業報告書【速報版】 2020年3月 800冊作成
防災と福祉の連携促進モデル事業報告書 2020年4月 1,800冊作成

地区ブロック報告

神戸地区ブロック

1 総括

介護業界等で、アジア人の活躍が期待されているが、外国籍の住民が多い神戸で、『多様性のある神戸の福祉』をテーマにしてきた。総会の記念イベントは、やさしい日本語演習をするなど、ソーシャルワーカーとして、外国籍住民にも支援ができるよう、学び合った。

神戸ブロックの大きな活動である「まちかど相談会」は、相談内容は社会での生きづらさを反映した、多岐にわたるものとなった。今後、この相談会は、重要な事業として位置づけていく。研修会は、「ほめ達 入門編」を開催し、会員の「関係づくり」を意識した取り組みを行った。

2 事業報告

(1) 総会・記念イベント

○総会

5月26日(日) 9:30~10:15 於:神戸クリスタルタワー5階 生活創造センターセミナー室
総会出席者:34名

○記念イベント

同日 10:25~11:45 於:同上 記念トーク『多様性のある神戸の福祉~外国籍住民の生活背景とやさしい日本語演習~』

スピーカー:(公財)兵庫県国際交流協会スペイン語通訳相談員 村松 紀子氏

参加者:34名

(2) 研修会の開催

2019年12月7日(土) 14:00~16:30 於:婦人会館

テーマ「福祉専門職のためのほめ達(ほめる達人)入門編」

講師:特別養護老人ホーム 六甲の館 施設長 溝田 弘美氏 参加者:34名

(3) 施設見学会(加古川刑務所) 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止

(4) まちかど相談会

2019年11月23日(土) 10:00~15:00 於:DUO KOBE 採光ドーム

(5) 情報交流会・つどい場「Le Lien(ル・リアン)」の開催

① 2019年5月26日(日) 12:30~14:00 於:ワールドビュッフェ ハーバーランド店
交流会・会食 参加者:20名

② 2019年9月28日(土) 12:30~15:00 於:大蔵海岸BBQ ZAZAZA
交流会・バーベキュー大会 参加者:13名

③ 2019年12月7日(土) 17:00~19:30 於:ワールドビュッフェ ハーバーランド店
忘年会・会食 参加者:19名

(6) 神戸ブロック会・理事会の開催

月	日	参加者数	会場	内容
4	29	9名	兵庫県福祉センター	総会の準備、事業計画、本年度の活動について
5	26	11名	ワールドビュッフェ	年間行事について
8	3	9名	神戸生活創造センター	年間行事・まちかど相談会について
10	27	11名	神戸市勤労会館	まちかど相談会、研修会、下半期の活動について
1	25	8名	善正寺	施設見学会について 次年度活動について(総会、事業計画等)

阪神地区ブロック

1 総括

阪神地区ブロック（以下「ブロック」という）は、ブロック設立13年目を迎え、ブロック活動への参加促進、ブロック会員間の交流・ネットワーク構築などを重点課題として、様々なブロック全体活動及び各部会活動を展開した。

ブロック全体事業では、5月の「ブロック総会」及び10月の「学習会」の定例事業に加え、国家試験対策委員会と協働し、10月～1月に「阪神自主ゼミ」を開催した。12月の恒例「まちかど相談会（模擬店）」は、西宮市総合福祉センターの改修工事のため、残念ながら中止となった。

また、阪神ブロックの集い場は、尼崎・三田・川西の3市で3回開催し、施設見学やハイキングなど多様な形態で参加促進に取り組むとともに、身近な地域で学習会を行い、専門性の研鑽を図り、会員間の顔の見えるつながりづくりに努めた。

さらに、障がい福祉部会や地域包括支援センター部会、生活困窮者部会、災害支援部会を設置し、兵庫県社会福祉士会活動への協力を積極的に行った。

2 事業報告

1. 組織運営

- ①ブロック総会 5月25日ソリオ・中会議室（宝塚市商工会議所会館）（40名参加）
- ②ブロック役員会 4月17日、5月25日、7月17日、9月19日、11月14日、1月25日、（計6回） 西宮市総合福祉センター他

2. ブロック全体事業

- ①5月25日 記念講演会「地域共生社会におけるソーシャルワーカーの役割を考える」
（講師）武庫川女子大学教授 松端 克文氏
特別講演会「兵庫県社会福祉士会のあゆみを振り返って」
（講師）兵庫県社会福祉士会 相談役 岡田 誠氏
- ②8月30日 新入会イベント「音楽療法を知る」尼崎市立すこやかプラザ（5名参加）
- ③9月28日 ブロック学習会
「LGBTについて考えよう～社会福祉士にできる支援とは～」
（講師：思春期保健相談士 徳永 桂子氏）尼崎市立すこやかプラザ（26名参加）
- ④10月～1月 阪神ブロック・自主ゼミ（西宮市市民交流センター）4回・延べ14名参加

3. 部会活動

（1）障がい福祉部会

兵庫県社会福祉士会の障がい福祉委員会に参加・協力した。

- ①6月9日 ②8月11日 ③10月13日 ④12月8日 ⑤2月9日

（2）地域包括支援センター部会

①兵庫県社会福祉士会の地域包括支援センター支援委員会に参加し、兵庫县委託事業「困難事例対応力向上研修」に協力。

②宝塚市地域包括ケア研究会への協力（共催）

（3）生活困窮者部会

兵庫県社会福祉士会の生活困窮者支援委員会に参加・協力した。

- ①4月7日 ②6月2日 ③8月4日 ④10月6日 ⑤12月1日 ⑥2月23日

（4）災害支援部会

①10月25日 災害支援委員会への参加

②2月2日 近畿ブロック研究・研修大会（プレ企画）を企画

③3月22日 災害支援委員会への参加

(5) 尼崎部会

①10月24日 集い場・交流会「傾聴」30名参加

(6) 芦屋・西宮部会

①9月6日 集い場・西宮「ナイトカフェ・よりカフェ」(中止)

②11月16日 集い場・西宮「親子カフェ・よりカフェ」(中止)

(7) 宝塚・伊丹・三田部会

①12月14日 集い場・交流会「三田リハビリ病院」13名参加

(8) 川西・猪名川部会

①11月30日 集い場・川西「中山寺ハイキング」12名参加

4. 事務局

①研修担当 研修会の企画、運営を行った。

②広報担当 こうのとり通信「阪神ブロックインフォメーション」への掲載。

③パソコンネットワーク担当 会員および役員のML運営や管理を行った。

④初任者イベント担当 初任者向けの学習会などイベントを企画した。

⑤阪神自主ゼミ担当 国家試験対策委員会と協働し、「阪神ブロック・自主ゼミ」を開催

5. 兵庫県社会福祉士会への協力

①JR西日本相談センターへの協力 会員の派遣と社員研修への協力

②障害者差別解消相談センターへの協力

東播地区ブロック

1 総括

東播地区ブロックは、明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町の南播磨と、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町の北播磨の総数 8 市 3 町のエリアを区域として、地域に根差した活動を行ってきた。

東播地区ブロックの大きな目標は、2019 年度も引き続き、「行けば会える」「点がつながり、線を広げる」を活動の軸として、分野や世代・キャリアを超えたネットワークの拡大を図っていくことであった。社会福祉士として専門分野の視点だけでなく、ソーシャルワークを基盤とした幅広いジェネリックな視点を持ち、この東播地域で活動しやすいようにいろいろな人々とのつながりを広げ、信頼関係を深めていくことを目標に具体的な事業として取り組んできた。

(1) 「集い場」の実施

当ブロックの活動の中心となるのが「集い場」で、「地域で活動する社会福祉士等の専門職がつながりを持ち、輪を広げたい。お互いに信頼関係を築いていけるように気軽に集まり、遠慮せずに何でも意見を言える場を設けたい」という思いで継続してきた。

2019 年度の「集い場」は、3 回実施した。第 1 回集い場「ごちゃまぜ交流会」(2019. 6. 11 小野市うるおい交流館エクラ) は 24 名の参加で、北播磨・東播磨地域の社会福祉士、介護福祉士、ケアマネジャー、相談支援専門員、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、障害福祉サービス支援員、行政職員、当事者、市議会議員などたくさんの職種の人々が集まり、日頃の仕事や活動で感じていることなど本音を言い合って交流ができた。第 2 回集い場「福祉職のつどう会」(2019. 8. 2 ヤマトヤシキ加古川ビアガーデン) は、「安心できる地域ケアを考える会」「よってこ・カフェ」の団体と共催のビアパーティで、南播磨地域の介護・障害の事業所の専門職、病院・訪問看護の医療関係者、社協・行政職員など約 100 名が集まり、そのうち社会福祉士が 20 名参加、さらに加古川市長も参加くださり、みんなで大いに盛り上がり親睦を深めた。第 3 回集い場「みんなで楽しいバトミントン」(2019. 10. 18 明石中央体育館) は、社会福祉士会員の所属する特別養護老人ホーム清華苑のバトミントンサークルと合同開催で、子ども連れで参加でき楽しく身体を動かした。

「集い場」は、顔の見える関係づくりの場として、勉強会、レクリエーション、茶話会、飲み会…など、自由なテーマで何でもできるような親睦、交流会にしていきたい。

(2) 2019 年度「兵庫社会福祉セミナー in 東播」の開催

兵庫社会福祉セミナーは、兵庫県社会福祉士会が会員と県民を対象にした大きな研修会で、地区ブロックが持ち回りで内容を企画するもので、令和元年 11 月 10 日(日)に明石市立産業交流センターで開催した。

当ブロックでは、例年、兵庫大学生涯福祉学部社会福祉学科の和田光徳教授のご協力のもと、ソーシャルワークをテーマとして「集い場」を実施してきたことから、ぜひ和田先生の実践と研究を県社会福祉士会の会員に知ってほしいという思いで、「ソーシャルワークと福祉教育・人材育成について」というテーマを取り上げた。

午前中は和田先生の記念講演、午後は倫理研修とシンポジウムを行った。倫理学習は独立型社会福祉士支援委員会が進行し、グループワークを行い、参加者が社会福祉士の倫理綱領を再認識できる機会となった。シンポジウムは、「ソーシャルワーカーを育成する教育とは」というテーマで、児童、高齢者、県社会福祉士会生涯研修センター、独立型社会福祉士という視点で会員 4 名が発表し、和田先生のコーディネートのもと意見交換をした。

今回の社会福祉セミナーは 1 日開催であったが、東洋羽毛関西販売株式会社 株式会社三笑堂 関西医療株式会社 FINE-LINK の 4 社が協賛となり、会場に展示ブースを設け、昼休みにランチセッションを行い、福祉用具や介護について様々な情報を得ることができた。

会場には、「まちかど相談会」の相談ブースも設けて、参加者からの相談に対応できるように準備した。また、参加者には、明石市内の就労継続支援 B 型の事業所が作ったクッキーをお土産にした。そして、セミナー終了後の夜には 12 名が懇親会に参加して、会員同士の親睦を深めた。

セミナーの日程が他の行事と重なる時期でもあり、参加者が 29 名とやや少なかったが、セミナーの内容はすごく充実したもので、参加者の満足度は高かったと思われる。

(3) まちかど福祉・介護無料相談会の実施

2019年度の「まちかど無料相談会」は、今回もたくさんの地域住民が集まる「神戸刑務所展」(10月12日)のブースで実施する予定であったが、台風のために主催者が中止を決定した。

(4) 自主企画研修の実施

当ブロック自主企画研修では、社会福祉協議会について学ぶというテーマを取り上げた。地域包括ケアを進める上で、社会福祉士にとって社協は協働・連携機関として欠かせない存在である。2019年度は、「社協のこと、本当に知っていますか?」というタイトルで、明石市、稲美町、多可町の現役社協職員さんから社協の役割や活動などについてのレクチャーと、参加者同士の繋がりをつくって今後の活動に活かすという内容で、2020年2月29日に明石市開催で企画した。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。次年度は、再チャレンジしたい。

(5) 情報ネットワークの取組み

当ブロック活動の日々の活動やイベントの情報の発信を発信できるように、「Facebook(フェイスブック)」を始めて2年が経過し、それなりに内容が整ってきた。そのため、長年、ブロック活動を紹介してきた「東播地区ブロック ブログ」を閉鎖した。今後も、「Facebook(フェイスブック)」の内容を充実させ、より多くの皆さんが関心を持てるように情報発信していきたい。また、「東播地区ブロック メーリングリスト」を活用して、会員同士の情報交換が活発になるように工夫したい。

2019年度は、9月頃から東播地区ブロック理事の情報共有ツールとして、Chatworkを使って、随時情報を交換し、意思決定ができる仕組みをつくった。このシステムはオンライン会議もできるため、新型コロナウイルス対策として、3月17日、4月2日の当ブロック理事会をオンライン会議で実施した。

今後も新型コロナウイルス対策が続くことから、オンラインを活用した会員同士の交流・情報交換ができないか、調査研究をしていきたい。

2 事業報告

(1) 東播地区ブロック「第10回総会」の開催

〈日時〉 2019年6月2日(日) 14:00～

〈場所〉 加古川市総合福祉会館

〈内容〉 記念講演 「障害者が自立した生活を実現するために」
講師 オールフリーの会 代表 藤本 あさみ氏

(2) 東播地区ブロック理事会の開催(7回)

2019年4月22日(月) 19:00～21:00	特別養護老人ホーム「清華苑」 ・2019年度東播地区ブロック総会の準備 ・年間事業計画 ・事業の進捗状況 ・県理事会の報告
2019年6月17日(月) 19:00～21:00	特別養護老人ホーム「清華苑」 ・2019年度東播地区ブロック総会の報告 ・年間事業計画 ・事業の進捗状況(集い場、自主企画研修) ・県理事会の報告
2019年8月6日(火) 19:00～21:00	特別養護老人ホーム「清華苑」 ・県社会福祉セミナーの企画 ・自主企画研修の計画 ・事業の進捗状況(集い場・まちかど無料相談会) ・県理事会の報告
2019年10月15日(火) 19:00～21:00	特別養護老人ホーム「清華苑」 ・県社会福祉セミナーの準備 ・自主企画研修の計画 ・事業の進捗状況(集い場・まちかど無料相談会) ・県理事会の報告 ・東播地区介護福祉士会との連携
2020年1月14日(火) 19:00～21:00	特別養護老人ホーム「清華苑」 ・県社会福祉セミナーの報告・反省 ・自主企画研修の準備 ・事業の進捗状況(集い場) ・2020年度東播地区ブロック総会の企画 ・県理事会の報告
2020年3月17日(火) 19:00～22:00	Chatworkによるオンライン会議 ・新型コロナウイルス感染症拡大の対応 ・自主企画研修、神戸ブロックとの交流会の中止 ・2020年度東播地区ブロック総会の準備 ・県理事会の報告
2020年4月2日(火) 19:00～22:00	Chatworkによるオンライン会議 ・新型コロナウイルス感染症拡大の対応 ・コロナ対策と次年度の事業計画 ・2020年度東播地区ブロック総会の準備、進め方の検討 ・県理事会の報告

(3) 交流会・研修会等の開催、地域交流会への参加 (4回)

<p>2019年6月11日(火) 18:30~20:30</p>	<p>第1回集い場「ごちゃまぜ交流会」 《小野市ふれあい交流館エクラ》 (参加者:24名) 「東播地区へようこそ～はじめのいっぽ♪東播ブロック～」</p>
<p>2019年8月2日(金) 18:00~21:00</p>	<p>第2回集い場「福祉職のつどう会」 ※「安心できる地域ケアを考える会」「よってこカフェ」共催 《ヤマトヤシキ加古川店 屋上ビアガーデン》 (参加者:20名)</p>
<p>2019年10月12日(土) 《中止》</p>	<p>まちかど福祉・介護無料相談会 《第42回ひょうご矯正展(神戸刑務所:明石市)》 ※台風のため主催者側が中止</p>
<p>2019年10月18日(金) 19:00~20:30</p>	<p>第3回集い場「みんなで楽しいバトミントン」 《明石中央体育館》 (参加者:18名) ※特別養護老人ホーム「清華苑」バトミントンサークル共催</p>
<p>2019年11月10日(日) 10:30~16:30</p>	<p>兵庫県社会福祉士会 東播地区ブロック・研修委員会主催 「兵庫社会福祉セミナー in 東播」 《明石市立産業交流センター》 (セミナー参加者:29名、懇親会参加者:12名) 第1部 記念講演 「ソーシャルワークと福祉教育・人材育成」 講師 兵庫大学生涯福祉学部社会福祉学科 学科長 和田 光徳 教授 第2部 倫理研修 独立型社会福祉士支援委員会 第3部 シンポジウム 「ソーシャルワーカーを育成する教育とは」 ・コーディネーター 兵庫大学生涯福祉学部社会福祉学科長 和田光徳 教授 ・シンポジスト (児童分野) 子ども家庭支援委員会 委員長 福井良江 氏 (高齢者分野) 東播地区ブロック理事 岩西太一 氏 (生涯研修センター) 県社会福祉士会理事 山下雅夫 氏 (独立型社会福祉士) 独立型社会福祉士支援委員会 委員長 村上弘幸 氏</p>
<p>2020年2月29日(土) 14:00~16:30 《中止》</p>	<p>自主企画研修「社協のこと、知っていますか」 《明石市市民会館 第3・第4会議室》 ・現役社協職員による組織紹介、活動説明と社会福祉士としての仕事 内容説明 ・グループワーク、意見交換会 (講師) 明石市社会福祉協議会 法人運営課企画経営係 主任 西野 誠 氏 (社会福祉士) 稲美町社会福祉協議会 福祉活動専門員 坂口 智彦 氏 (社会福祉士) ※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止</p>

(4) 広報ネットワーク活動

- ① 東播地区メーリングリスト
- ② Facebook (フェイスブック)
- ③ 会員向けの県本会広報誌「このとり通信」の活用 (当ブロック事業の広報、事業の報告)
- ④ 市民向けの広報誌「兵庫県社会福祉士会」の配布
(当ブロック内の行政窓口、社会福祉協議会、地域包括支援センター等)
- ⑤ 東播地区ブロック理事会で Chatwork を使った情報共有、オンライン会議の試行
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大の対応として、オンライン通信による交流会、情報交換会の実施
にむけての調査研究

西はりま地区ブロック

1 総括

地区ブロックは、兵庫県社会福祉士会の窓口であるとの認識のもと、研修会、会員親睦活動を行った。各イベントを通じて、他団体との交流、新規会員の発掘等、活動が広がった。年度後半において新型コロナウイルス感染の影響により、研修会開催を延期することとなったが、今後とも会員の意向を取り入れ、研修会、勉強会、親睦会や事業を進めていく。

2 事業報告

- (1) 2019年度 一般社団法人兵庫県社会福祉士会
西はりま地区ブロック総会
日時：2019年5月26日（日）13：30～
場所：姫路・西はりま地場産センター じばさんびる
記念講演：「認知症になっても住み慣れた環境で…って具体的にどうということ?!」
講師：(株) あおいけあ 代表取締役 加藤忠相氏
(株) おおきに 代表取締役 太田悠貴氏

- (2) 2019年度 兵庫県社会福祉士会総会
「はじめのいっぽ♪」開催協力
日時：2019年6月22日（土）
場所：兵庫県民会館

- (3) 西はりまブロック研修会
日時：2019年7月28日（日）
場所：姫路じばさんびる
内容：「認知症のある方のリハビリテーション」
講師：赤穂市立介護老人保健施設 老健あこう 作業療法士 鍛冶 実氏

日時：2019年9月8日（日）
場所：姫路じばさんびる
内容：「やっぱりお家が好き！」
講師：医療法人社団医仁会 ふくやま病院 理事長 医学博士 譜久山 剛氏

日時：2019年12月15日（日）
場所：姫路じばさんびる
内容：「第2弾！グラレコを学ぼう」
講師：株式会社コマツ ばんしゅうケアプラン 介護支援専門員 岡田 英之氏

- (4) 社会福祉士によるまちかど無料相談会
日時：2019年11月3日（日）
場所：姫路大手前公園

- (5) 役員会（研修会打合せ等）の開催
(4/28 5/26 7/2 11/3 12/15)

- (6) 懇親会・プレミアムフライデー
(4/6 7/28 9/8 12/15 1/24)

但馬地区ブロック

1 総括

2019年度においては、社会福祉士相互の交流の機会を多く持つこと以外に、それぞれの専門分野で、独自の活動についてもブロック活動の一つとして位置づけ、会員のニーズに合わせた研鑽に努めていくことを目標として事業を行った。具体的には、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を目的として、ホワイトボードミーティング研修を行った。

また、従来どおり福祉分野の他の職能団体（介護支援専門員協会等）との連携強化などで、専門職としての存在を高める取り組みを行ってきた。会員数が少なく、移動距離が長い、そして他資格とも兼ねて活動する会員が多い当地で、なるべく負担を少なくしながら、福祉分野以外の専門職ともネットワークを構築する足がかりとなる一年であったと考える。

今後この足がかりをもとに、次のステップにつなげていきたい。

2 事業報告

(1) 総会

6月1日（土）14：00～

場 所：豊岡市役所立野庁舎

内 容：人生の最終段階の「自己決定」を支える

～ACP（アドバンスケアプランニング）と実践課題～

講師：おおい町国保名田庄診療所所長 中村 伸一 氏

(2) 研修①

10月10日（木）

11月14日（木）

場 所：但馬長寿の郷（養父市）

内 容：研修会

ホワイトボードミーティング

講師：介護老人保健施設ハーモニー園主任ケアマネジャー

船越 綾子 氏

(3) 研修②

11月20日（水）

12月13日（金）

場 所：但馬長寿の郷（養父市）

内 容：研修会

もう悩まない医療ニーズ把握の基本の「キ」

～医療連携：医療ニーズの高い人への支援のポイント～

講師：医療法人愛和会 篠原あんしんすこやかセンターセンター長

鶴本 和香 氏

丹波地区ブロック

1 総括

丹波地区ブロックは、社会福祉士による権利擁護活動や地域福祉実践がより一層推進されるよう、2019年度も研修や交流会を通してブロック活動の充実、会員間ネットワークの強化に重点的に取り組んだ。

地域福祉関係では、丹波篠山市介護保険事業運営協議会、丹波篠山市権利擁護委員会等に参画し、地域支援ネットワークの構築や強化を図った。

また、県士会への協力として、「マインドフルネス研修」「社会福祉士によるまちかど福祉、介護無料相談会・活動展示会」の実施に協力・参画した。

2020年度は、研修と交流会の開催を通して、少しずつではあるが参加する会員が増える兆しが見られたので、今後も引き続きブロック活動の充実に力を入れていきたい。

2 事業報告

- (1) 2019年度 一般社団法人兵庫県社会福祉士会丹波地区ブロック総会
日付：2019年6月1日（土） 場所：柏原住民センター

(2) 研修

- ①日付：2019年6月1日（土） 場所：柏原住民センター
内容：「福祉サービス従事者のためのハラスメント対策」
講師：丹有法律事務所 弁護士 馬場 民生 氏

- ②日付：2019年7月13日（土） 場所：ユニットピアささやま
内容：初任者研修&交流会
講師：丹波ブロック理事

- ③日付：2020年2月1日（土） 場所：丹波篠山市民センター
内容：「高齢者・障がい者のライフプランニング」
講師：株式会社ファモア 代表取締役 武田 拓也 氏

(3) 県士会との協力事業

マインドフルネス研修

- 日付：2019年9月22日（土）、23日（日） 場所：曹洞宗 法福山 東漸寺
講師：東漸寺 不破 一浩 氏 ほか

(4) 社会福祉士によるまちかど福祉、介護無料相談会・活動展示会

- 日付：2019年11月2日（土） 場所：コープ柏原

(5) 役員会

- 2019年4月11日（木）、6月18日（火）、9月6日（金）、10月23日（水）、
11月22日（金）、2020年1月20日（月）

(6) 交流会

- 日付：2019年6月1日（土）、7月13日（土）、2020年2月1日（土）

淡路地区ブロック

1 総括

当ブロックは設立当初より「ネットワーク作り」や「仲間作り」をテーマに活動をしてきた。2019年は「地域包括ケアシステム」の研修会を開催した。この研修会で地域包括システムの理解と医療関係者・福祉関係者と交流を持つ機会となった。また、まちかど無料相談会や淡路圏域リハビリテーション部会に参加し社会福祉士の広報活動も例年同様行った。

2 事業報告

(1) 組織運営

①淡路ブロック総会

日時：2019年6月9日（日）11：20～11：50 場所：淡路医療センター

内容：2018年度事業報告、2018年度決算報告、
2019年度事業計画、2019年度予算についての採決

②役員会

<第1回>

日時：2019年4月19日（金）19：00～20：30 場所：洲本市総合福祉会館

内容：2019年度淡路ブロック総会について・2019年度の予定

<第2回>

日時：2019年9月17日（火）19：00～21：00 場所：洲本市総合福祉会館

内容：なかマップ・交通費助成について・まちかど相談会・研修会について

<第3回>

日時：2019年11月25日（月）18：30～21：00 場所：洲本伊月病院 会議室

内容：なかマップ・研修会交通費助成・研修会・国試対策・来期ブロック長

(2) 事業

①研修会 地域ケアシステムの深化～自分たちの町を作り上げるデザイン～

日時：2019年6月9日（日）10：00～11：20 場所：淡路医療センター 会議室

参加：21名

内容：地域包括システムの目的。自分らしい暮らしを支えるためにはどうすればいいのか。
福祉職への課題と今後の展望

講師：畑山 造志 氏（洲本市役所 介護福祉課 理学療法士・生活支援コーディネーター）

(3) その他

①まちかど無料相談会・活動展示会の実施

日時：2019年10月13日（日）10：00～14：00 場所：洲本市総合福祉会館駐車場

参加：7名（淡路ブロック役員）、相談委員2名

相談件数：3件

②淡路圏域リハビリテーション部会

※淡路圏域のPT・OT・STの研修会立案等

実務者会議 2019年度4回、社会福祉士代表として参加

③懇親会

日時：2019年6月9日（日）12：00～ 場所：ザキッチン ボーノボーノ

参加：10名（ブロック総会参加者）